corega

CG-IPKVMR

取扱説明書

Y613-09492-00 Rev.B

安全にお使いいただくためにお読みください

ここには、使用者および他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、ご購入いただいた商品を安全に正しくお使いいただくための注意事項が記載されています。使用されている警告表示および絵記号の意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ本文をお読みください。

警告表示の説明

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵記号の説明

この記号は警告・注意を喚起するための記号です。記号の中または近くに具体的な警告・注意事項が示されています。

例）「発火注意」

この記号は禁止行為を示すための記号です。記号の中または近くに具体的な禁止事項が示されています。

例）「分解禁止」

この記号は必ず行っていただきたい指示内容を示すための記号です。記号の中または近くに具体的な指示内容が示されています。

例）「電源プラグをコンセントから抜く」

⚠ 警告

家庭用電源（AC100V）以外では絶対に使用しないでください。
異なる電圧で使用すると発煙、火災、感電、故障の原因となります。

必ず付属の専用ACアダプタ（または電源ケーブル）を使用してください。
本商品付属以外のACアダプタ（または電源ケーブル）の使用は火災、感電、故障の原因となります。

電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
電源ケーブルに重いものをのせたり、加熱や無理な曲げ、ねじり、引っ張ったりすると電源ケーブルを破損し火災、感電の原因となります。また、電源ケーブル（またはACアダプタ）をコンセントから抜くときにケーブル部を持って抜かないでください。

本商品（ACアダプタ含む）は風通しの悪い場所に設置しないでください。
過熱し、火災や破損の原因となることがあります。

本商品（ACアダプタ含む）を分解や改造はしないでください。
感電、火災、けが、故障の原因となります。

本商品の通風孔などから液体や異物が内部に入ったら、ACコンセントからプラグを抜いてください。
そのまま使用を続けると、火災、感電の原因となります。

煙が出たり、異臭がしたら使用を中止し、ACコンセントからプラグを抜いてください。
そのまま使用を続けると、火災、感電の原因となります。

濡れた手で本商品を扱わないでください。
電源が接続された状態で、本商品の操作や接続作業を行うと感電の原因となります。

本商品は一般事務、家庭での使用を目的とした商品です。
本商品は、住宅設備・医療機器・原子力設備や機器・航空宇宙機器・輸送設備や機器などの人命に関わる設備や機器および極めて高い信頼性を要求される設備や機器としての使用、またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本商品は使用しないでください。本商品の故障により社会的な損害や二次的な被害が発生するおそれがあります。

⚠ 注意

本商品を多段積みで使用したり、通風孔をふさいだりしないでください。
内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

本商品の前後左右、および上部には十分なスペースを確保してください。
換気が悪くなると内部温度が上昇し火災や故障の原因となります。また、商品に使用しているアルミ電解コンデンサは、高い温度状態で使用し続けると早期に寿命が尽きることがあります。寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙、火災の原因となることがあります。

本商品を次のような場所で使用や保管はしないでください。
- 直射日光のあたる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- 湿気の多い場所や水などの液体がかかる場所
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、じゅうたん等の保温性、保湿性の高い場所
- 腐食性ガスの発生する場所
- 台所、浴室、洗面所などの水気や湿気が多い場所
- ユニットバスや天井裏など高温・多湿で風通しの悪い場所
- 壁の中などお手入れが不可能な場所
- 強い磁気や電磁波が発生する装置が近くにある場所

事故防止のため、お手入れ可能な場所に設置してください。
本商品(ACアダプタ含む)にほこりなどが付着していると発煙や火災の原因となる場合があります。ほこりなどが付着している場合は、電源を切った状態にしてから乾いた布でよく拭き取ってください。

雷のときは本商品や接続されているケーブル類に触らないでください。
落雷による感電の原因となります。

本商品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。
故障の原因となることがあります。

はじめに

このたびは、「CG-IPKVMR」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は本商品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただけるように、大切に保管してください。また、本商品に関する最新情報（ソフトウェアのバージョンアップ情報など）は、コレガのホームページでお知らせしておりますのでご覧ください。

http://corega.jp/

本書の読み方

●記号について

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

	操作中に気をつけていただきたい内容です。必ずお読みください。		補足事項や参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-IPKVMRのことです。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　]	[　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → [OK]
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版および Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 のことです。
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版のことです。
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版のことです。
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版のことです。

※本書では、複数のOSを「Windows XP/2000」のように併記する場合があります。

●イラスト / 画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

導入ガイド

本書は本商品に関する情報や使用方法･取付方法や設置方法などついて説明しています。本書の構成は以下のとおりです。

■ PART1…本商品について

本商品の概要や特長、本商品を使用するときに必要な環境や同梱品の一覧、各部の名称と機能を説明しています。

■ PART2…本商品との接続

本商品の基本的な接続について説明しています。

■ PART3…本商品の詳細設定

本商品の詳細な設定について説明しています。

■ PART4…ユーティリティディスク

同梱のユーティリティディスク（CD-ROM）に収録されているソフトウェアのインストール方法および操作方法について説明しています。

■ PART5…ログ

本商品に記録されるログおよびパソコンでログを記録・分析できる「Log Server ソフトウェア」について説明しています。

■ PART6…Q&A

本商品を使っていて疑問があったときにご覧ください。

■付録

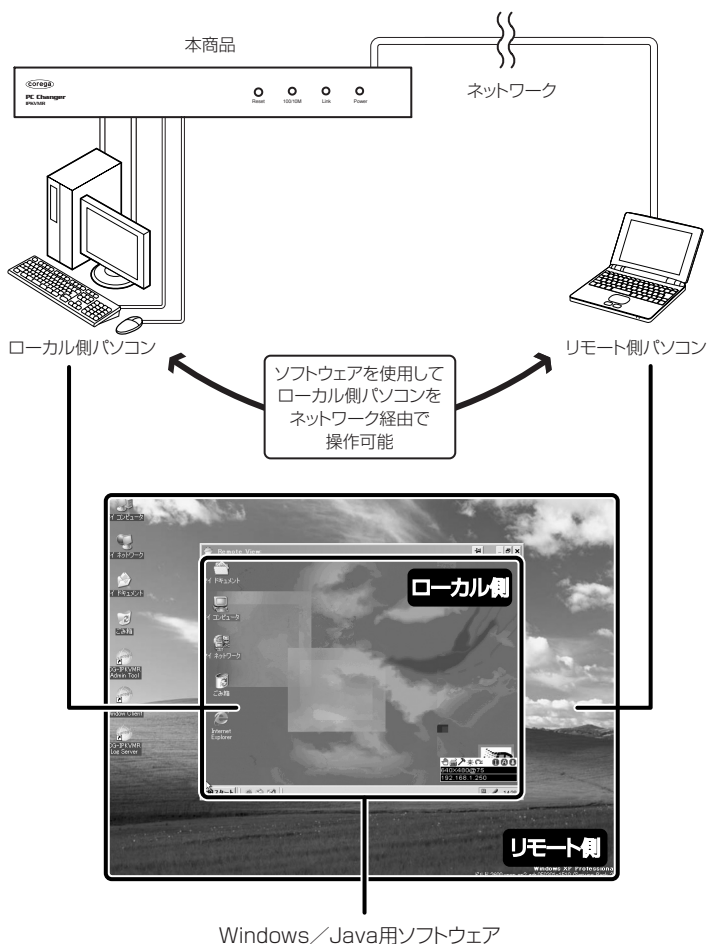
本商品についての仕様および関連する技術的な情報やラックマウントセットの使用方法などが記載されています。また、保証や修理、コレガサポートセンタへの連絡先なども記載されています。

目　次

PART 1

本商品について

本商品の概要

本商品はネットワーク経由でパソコンを操作できる切替器です。PS/2キーボード・PS/2マウス・アナログRGBのディスプレイに対応したパソコン（ローカル側パソコン）を本商品に接続し、コンソール（キーボード、マウス、ディスプレイ）で直接操作するか、ネットワークに接続されたパソコン（リモート側パソコン）でリモート操作することができます。使用例を以下に示します。

本商品の特長

本商品には以下のような特長があります。

●ネットワーク経由でリモート操作が可能

LANまたはインターネットなどのTCP/IPネットワーク経由で、離れた場所からパソコンを操作できます。
リモート操作用のソフトウェアはWindows用とJava用を添付します。

●100BASE-TX/10BASE-Tに対応

ネットワークポートは100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応し、オートネゴシエーション機能で自動的に判別されます。

●コンソールは、PS/2キーボード・PS/2マウス・アナログRGBディスプレイに対応

キーボード・マウス・ディスプレイはもっとも普及している規格に対応しています。

●ディスプレイ解像度は最大1,600×1,200(60Hz)、1,280×1,024(75Hz)に対応

●ユーザアカウント機能搭載

64人分のユーザアカウントに対応します。
32人分のユーザアカウントが同時にログインできます。
アカウントごとの権限を設定できます。

●メッセージボード機能搭載

ログイン中のユーザ間でのコミュニケーションができます。

●ログ機能を搭載

本商品本体でのログ表示のほか、指定したパソコンにログを保存できます。
パソコンに保存したログで、分析ができます。

●別売りのコレガ製切替器に対応

対応切替器と併用することで、切替器下の複数台のローカル側パソコンをネットワーク経由で切替・操作できます。

●強固なセキュリティを搭載し、通信を保護

1024bitのRSA暗号で通信を保護します。
パスワード機能で本商品へのログインやローカル側パソコンへのログインを保護します。

●ラックマウントセットを同梱

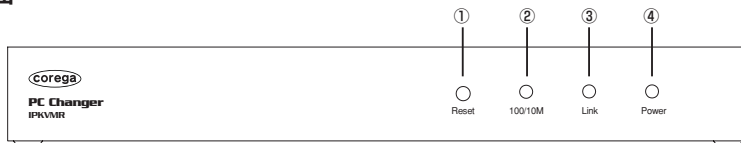
19インチラックマウントに固定可能なラックマウントセットを同梱します。

同梱品一覧

本商品をご使用になる前に、以下のものが同梱されていることをご確認ください。万が一、欠品・不良などがございましたら、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

□ CG-IPKVMR本体　□ ACアダプタ　□ KVMケーブル（1.8m）
□ ゴム足×4　□ ラックマウントセット（ラックマウント金具×1、ネジ×2）
□ ユーティリティディスク（CD-ROM）
□ 取扱説明書（本書）　□ 製品保証書（1年）

各部の名称と機能

■前面

①リセットスイッチ

本商品を再起動させるためのスイッチです。

②100/10Mbps LED(橙/緑)

点灯（橙）：100Mbps で接続されています。

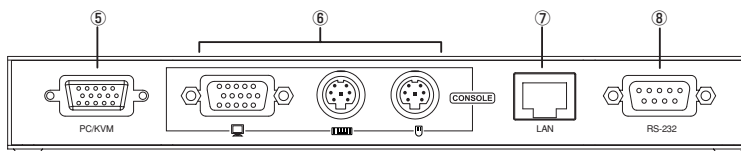
点灯（緑）：10Mbps で接続されています。

③Link LED(緑)

点滅：Windows Client ソフトウェア／Java Client ソフトウェアでローカル側パソコンにアクセスしています。

④Power LED(橙)

点灯：本体に電源が供給されています。

■背面

⑤KVMポート

同梱のKVMケーブルを使用し、別売りの切替器またはローカル側パソコンに接続するためのポートです。

KVMポートには、通常のミニD-Sub15ピンのVGAケーブルを接続することはできません。

⑥コンソール用ポート

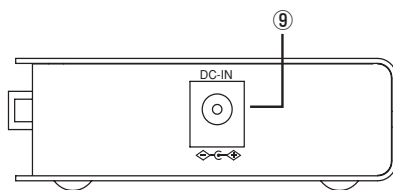
コンソール用のキーボード･マウス･ディスプレイを接続するためのポートです。ローカル側パソコンを操作する場合はこちらのポートに接続したキーボード･マウス･ディスプレイを使用します。各ポートは、PC99 準拠のカラーリングが施されています。

⑦ネットワークポート(100BASE-TX/10BASE-T対応)

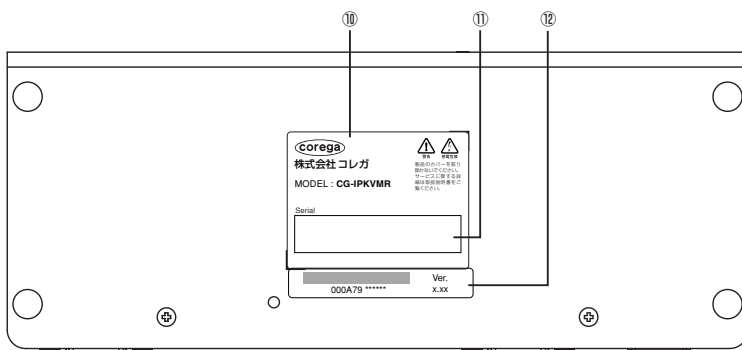
LAN ケーブルで 100BASE-TX または 10BASE-T のネットワークに接続するためのポートです。

⑧RS-232ポート

シリアルケーブルを接続するためのポートです。現在は使用できません。

■左側面

⑨DCジャック

同梱の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

■底面

⑩製品ラベル

本商品の製品名が記載されています。

⑪シリアル番号ラベル

本商品のシリアル番号とリビジョンコードが記載されています。シリアル番号とリビジョンは弊社サポートセンタへの問い合わせの場合に必要となります。

⑫MACアドレス／ファームウェアバージョンラベル

本商品の MAC アドレスとファームウェアのバージョンが記載されています。

必要条件

■本商品に接続するパソコン(ローカル側パソコン)

ローカル側パソコンには、以下のポートが必要です。

●アナログRGB(ミニD-Sub15ピン)対応ディスプレイ出力ポート
●PS/2(ミニDIN6ピン)対応キーボードポート
●PS/2(ミニDIN6ピン)対応マウスポート

・本商品はシリアルマウスに対応しておりません。シリアル⇔PS/2変換アダプタを使ってシリアルマウスを接続しても正しく動作しません。
・本商品はATキーボード・84キーボードに対応しておりません。
・下表に示された解像度とリフレッシュレートのノンインタレース信号にのみ対応しています。

解像度	リフレッシュレート
640×480	60, 70, 75, 85, 90, 100, 120Hz
720×400	70, 75Hz
800×600	56, 60, 70, 75, 85, 90, 100Hz
1,024×768	60, 70, 75, 85, 90, 100Hz
1,152×864	60, 70, 75, 85Hz
1,280×1,024	60, 70, 75Hz
1,600×1,200	60Hz

■コンソール

本商品に接続したローカル側パソコンを直接操作する場合は、以下の一組のコンソールが必要です。

●アナログRGBディスプレイ
●PS/2キーボード
●PS/2マウス

■ケーブル

本商品とローカル側パソコンおよびリモート側パソコンを接続するには､以下のケーブルが必要です。

●カテゴリ5以上のLANケーブル(別売り)

本商品とリモート側パソコンを接続します。カテゴリ５以上のLANケーブルをご使用ください。

本商品はAuto MDI/MDI-Xに対応しておりません。本商品とリモート側パソコンを直接接続する場合は、クロスケーブルをご使用ください。

本商品は10BASE-Tに対応しておりますが､快適にご使用いただくためには､100BASE-TXのネットワーク環境での使用をおすすめします。

●KVMケーブル(1.8m)(同梱品)

本商品とローカル側パソコンとを接続します。

●PS/2 KVMケーブル(本商品側：SPHD15ピン／パソコン側：PS/2)

同梱のKVMケーブルの長さが足りない場合や紛失した場合に別途ご用意ください。

商品名	長さ
KVMCBLS180	1.8m
KVMCBLS300	3.0m
KVMCBLS600	6.0m

●USB KVMケーブル(本商品側：SPHD15ピン／パソコン側：USB)

本商品とローカル側パソコンをUSBで接続する場合に別途ご用意ください。

商品名	長さ
CG-KVMCBL18U	1.8m

規格外のケーブルを使用すると､接続機器を破損させたり､機器の性能を低下させる場合がありますので、コレガ製の対応ケーブルを使用してください。

■本商品にアクセスするパソコン(リモート側パソコン)

本商品にネットワーク経由でアクセスするには、Intel Pentium Ⅲ 1GHz以上のプロセッサを搭載したパソコン、および解像度1,024×768以上に対応したディスプレイをおすすめします。

- 使用するWebブラウザがRSA1024bit暗号化に対応している必要があります。
- 「Windows Client ソフトウェア」を使用する場合は、DirectX 7.0 以上がインストールされている必要があります。
- 「Java Client ソフトウェア」を使用する場合は、Sun Microsystems Java2(JRE1.4 以上)がインストールされている必要があります。
- 「Log Server ソフトウェア」を使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上がインストールされている必要があります。

PART 2

本商品との接続

接続の手順

本商品の接続を以下の手順で行います。

ここでは、本商品のIPアドレスを変更せずに本商品が属するローカルネットワーク内（ネットワークアドレス：192.168.1.0／サブネットマスク：255.255.255.0）で動作確認する方法をご案内します。まず本章の手順にしたがって、本商品の属するローカルネットワーク上で動作を確認してください。お客様のネットワークでご利用になる場合は、動作確認後に本商品のIPアドレスをお客様のネットワークに合わせて変更の上、本章と同様の手順で接続してください。IPアドレス変更の詳細は「Network設定」（P.26）をご覧ください。

1.ローカル側パソコンとの接続

本商品とローカル側パソコン、コンソール（キーボード・マウス・ディスプレイ）を接続し、コンソールでローカル側パソコンを操作できることを確認します。

2.リモート側パソコンとの接続

本商品とリモート側パソコンをLANケーブルで接続します。

3.リモート側パソコンからの動作確認

リモート側パソコンから本商品にログインし、「Windows Clientソフトウェア」を使用してローカル側パソコンの操作ができることを確認します。

ここまでの設定で、リモート側パソコンからローカル側パソコンをネットワーク経由で操作することができます。

4.切替器との接続

複数台のローカル側パソコンを接続する場合に、本商品を対応切替器と接続します。

切替器との接続は、複数のローカル側パソコンを接続したい場合に行います。

5.インターネット経由でローカル側パソコンを操作

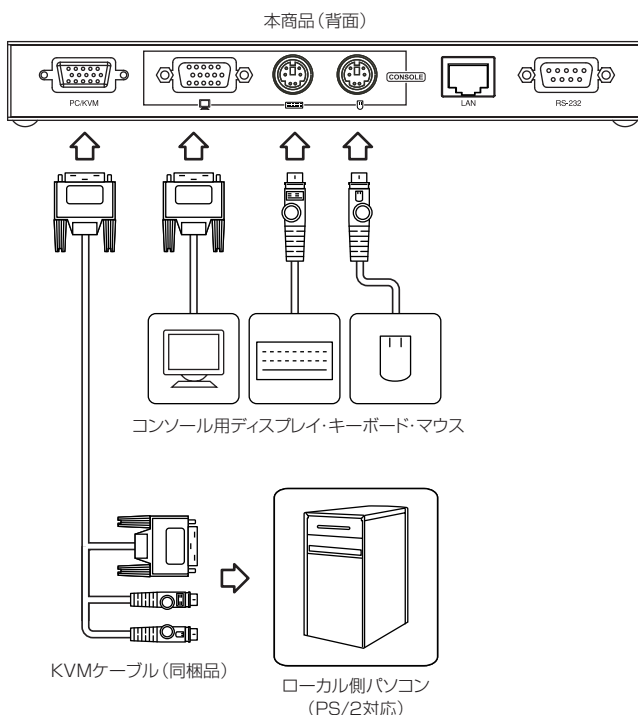
インターネット経由でローカル側パソコンを操作する場合にご覧ください。

接続

■ローカル側パソコンとの接続

本商品とローカル側パソコンとコンソールを接続し、コンソールで操作できることを確認します。

1　本商品に機器を接続する前に、接続するすべての機器の電源がオフになっていることを確認してください。パソコンに接続されているキーボードに電源オン／オフボタンなどの起動機能が付いている場合は、パソコンの電源ケーブルも抜いてください。

2　ローカル側パソコンとコンソールを接続します。以下の図にしたがって、ローカル側パソコンとコンソールを本商品背面の各ポートに接続します。

3　本商品の電源をオンにします。本商品のDCジャックに、同梱のACアダプタを接続した後、ACアダプタを電源コンセントに差し込みます。

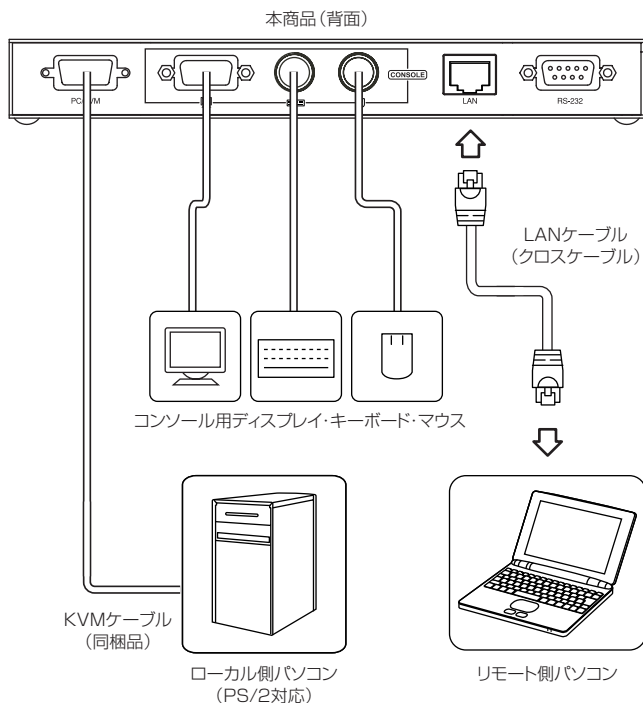
注意　**本商品の電源をオフにするには、ACアダプタを電源コンセントから抜いてください。ACアダプタを電源コンセントに差し込んだまま、本商品のDCジャックからACアダプタを抜かないでください。感電のおそれがあります。**

4　ローカル側パソコンの動作を確認します。ローカル側パソコンの電源をオンにし、コンソールでローカル側パソコンを操作できることを確認します。

以上で本商品とローカル側パソコンとコンソールの接続が完了しました。

■リモート側パソコンとの接続

本商品とリモート側パソコンをLANケーブルで接続します。

1　リモート側パソコンとコンソールを接続します。以下の図にしたがって、本商品とリモート側パソコンを接続します。

本商品はAuto MDI/MDI-Xに対応しておりません。本商品とリモート側パソコンを接続する場合は、スイッチングハブを間に入れるか、クロスケーブルで直接接続してください。接続例では、クロスケーブルで直接接続しています。

■リモート側パソコンからの動作確認

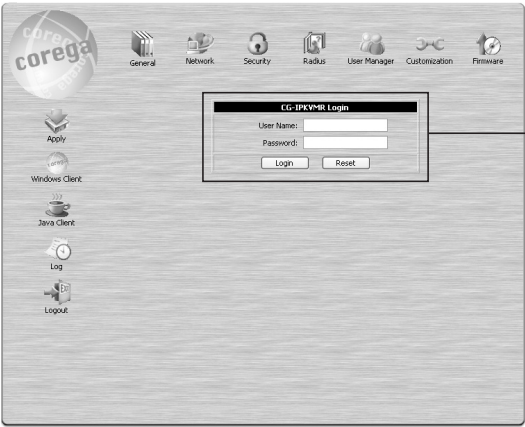
リモート側パソコンから本商品にログインし、ローカル側パソコンの操作ができることを確認します。

1　リモート側パソコンに本商品と接続するためのTCP/IPの設定を行います。本商品のIPアドレスは192.168.1.250、サブネットマスクは255.255.255.0ですので、リモート側パソコンのIPアドレスを192.168.1.100（例）、サブネットマスクを255.255.255.0に変更します。

2　リモート側パソコンからWebブラウザでアドレス「192.168.1.250」を開きます。認証画面が表示されますので、[はい] をクリックします。認証されると本商品のログイン画面が表示されます。

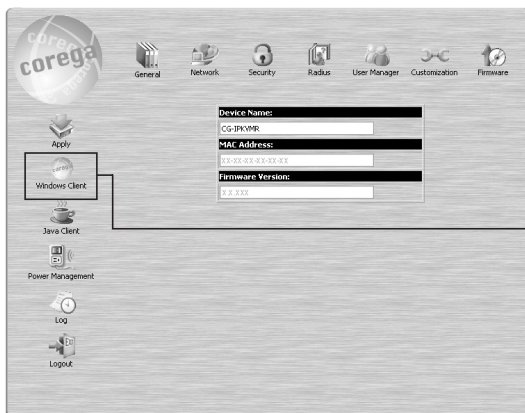
Webブラウザに「オフライン」や「プロキシサーバ」などを設定している場合、本商品の設定画面が表示されないことがあります。その場合は、「オフライン」や「プロキシサーバ」などの設定を一時的にオフにしてください。

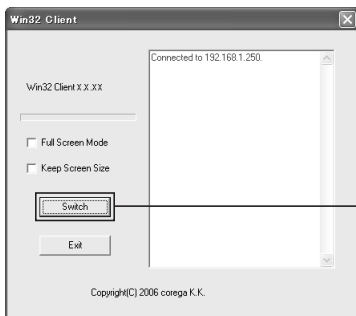
Internet Explorer 7をご使用の場合は、セキュリティ証明書の警告が表示されますので、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください（弊社にて動作を確認しております）。

3　ログイン画面の「User Name」と「Password」に以下の内容を入力し、[Login] をクリックします。

「User Name」と「Password」に以下の内容を入力し、[Login]をクリックします。

「User Name」欄	administrator（半角小文字）
「Password」欄	password（半角小文字）

- セキュリティ上の観点から、初期設定を変更して固有のログインユーザ名とパスワードを設定することをおすすめします。
- ログインユーザ名およびパスワードの変更方法は、「User Manager 設定」（P.32）をご覧ください。
- 本商品は、セキュリティの観点からリセットスイッチによる初期化はできません。ログインユーザ名やパスワードを忘れてしまうと、本商品にログインできなくなります。このような場合は「ログイン名・パスワード・IPアドレスなどの設定を忘れてしまった」（P.88）をご覧ください。
- 「Invalid Username or Password. Please try again.」メッセージが表示された場合は、ユーザ名やパスワードの入力に間違いがないか確認してください。

4　本商品にログインすると、以下の画面が表示されます。「Windows Clientアイコン」をクリックします。

5　ファイルのダウンロード画面が出ますが、そのまま［実行］をクリックします。

6　「Windows Client ソフトウェア」が起動します。［Switch］をクリックします。

7　「Remote View画面」が起動します。リモート側パソコンの画面内にローカル側パソコンの画面が表示されます。

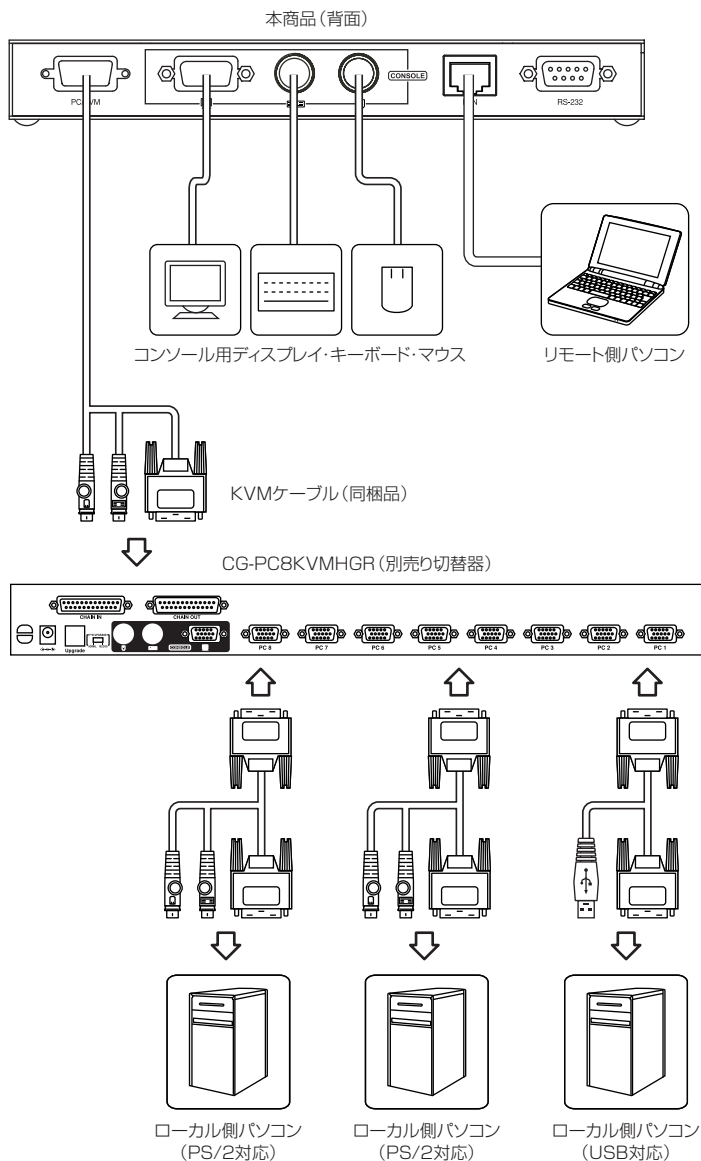
8　リモート側パソコンで「Remote View 画面」内のローカル側パソコンの操作をできることを確認します。

以上で本商品とリモート側パソコンの接続は完了し、ローカル側パソコンをコンソールとリモート側パソコンで切り替えて操作することができるようになりました。
お客様のネットワークでご利用になる場合は、以上の動作確認後に本商品のIPアドレスをお客様のネットワークに合わせて変更の上、本章と同様の流れで接続してください。IP アドレス変更の詳細は「アドミニストレータ設定」の「Network 設定」（P.26）をご覧ください。

本商品の詳細な設定については、「PART3…本商品の詳細設定」（P.23）以降をご覧ください。

■切替器との接続

本商品のKVM ポートに切替器を接続することで、複数台のローカル側パソコンをネットワーク経由で切り替えて操作することができます。接続例を以下の図に示します。「リモート側パソコンとの接続」（P.17）に続けて以下の手順で切替器を接続してください。

本商品（背面）

動作確認済みのコレガ製切替器は以下の機種です（2006年12月現在）。
- corega Changer KVM-8pro（CG-CKVM8P）
- CG-PC8KVMHGR
- CG-PC16KVMHGR

1　本商品に接続しているすべての機器の電源をオフにしてください。パソコンに接続されているキーボードに電源オン／オフボタンなどの起動機能が付いている場合は、パソコンの電源ケーブルも抜いてください。

2　電源コンセントからACアダプタを抜き、本商品の電源をオフにします。

3　本商品に接続しているKVMケーブルをローカル側パソコンから外し、切替器に接続します。

4　切替器の取扱説明書にしたがって、切替器とローカル側パソコンを接続します。

5　切替器→本商品→ローカル側パソコンの順番で電源をオンにします。

切替器とローカル側パソコンは切替器の説明書にしたがって接続してください。

6　「リモート側パソコンとの接続」（P.17）の手順でローカル側パソコンを操作できることを確認します。本商品に接続した切替器のホットキーも動作するかご確認ください。

以上で切替器との接続は完了です。

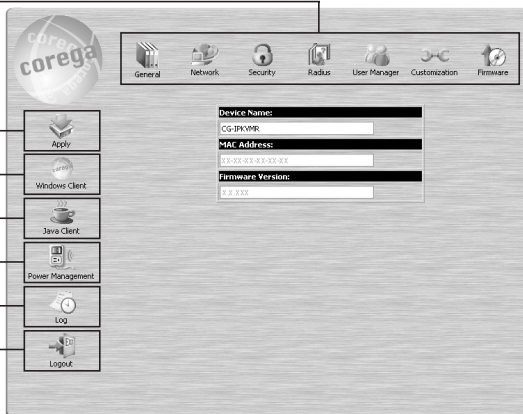
■インターネット経由でローカル側パソコンを操作

本商品はインターネット経由でもローカル側パソコンを操作することができます。詳しくは付録の「インターネット経由でローカル側パソコンを操作する」（P.92）をご覧ください。

PART 3

本商品の詳細設定

本商品の設定画面

この章では、設定画面内のそれぞれの機能を個別に説明します。

■操作アイコン

設定画面の左側には本商品の操作や状態を表す操作アイコンが縦に表示されています。操作アイコンの詳細は以下の表をご覧ください。

アイコン	内容
①Applyアイコン	アドミニストレータ設定で行った本商品の設定を保存します。アドミニストレータ設定については、「アドミニストレータ設定」(次ページ以降)をご覧ください。 ※変更した設定は現在の環境には反映しません。変更を反映させるにはユーザが「Reset on exit」を行ってログアウトする必要があります。詳細は「Customization設定」の「Reset Config」(P.36)をご覧ください。
②Windows Client アイコン	「Windows Clientソフトウェア」を起動して、ローカル側パソコンを操作する「Remote View画面」を表示します。詳細は「Windows Clientソフトウェア」(P.38)をご覧ください。

アイコン	内容
③Java Clientアイコン	「Java Clientソフトウェア」を起動して、ローカル側パソコンを操作する「Java Client画面」を表示します。詳細は「Java Clientソフトウェア」(P.48)をご覧ください。
④Power Management アイコン	現時点では本機能をご利用できません。
⑤Logアイコン	本商品に記録されているイベントログを画面に表示します。詳細は「PART5…ログ」(P.78)をご覧ください。
⑥Logoutアイコン	本商品からログアウトします。再ログインする場合は、Webブラウザごと起動しなおしてください。

アドミニストレータ設定

●本商品の詳細設定方法

本商品の詳細設定は、設定画面の上側にあるアドミニストレータ設定で行います。
設定を変更した場合は操作アイコンの「Applyアイコン」をクリックしてください。変更された設定を有効にするには「Reset on exit」ボックスにチェックを付けて設定画面からログアウトしてください。「Reset on exit」の詳細は、「Customization 設定」の「Reset Config」（P.36）をご覧ください。

アドミニストレータ設定の操作権限はユーザアカウントに依存します。設定変更の権限が与えられていないユーザアカウントの場合、アドミニストレータ設定を閲覧および変更することはできません。ユーザアカウントについては、「User Manager 設定」（P.32）をご覧ください。

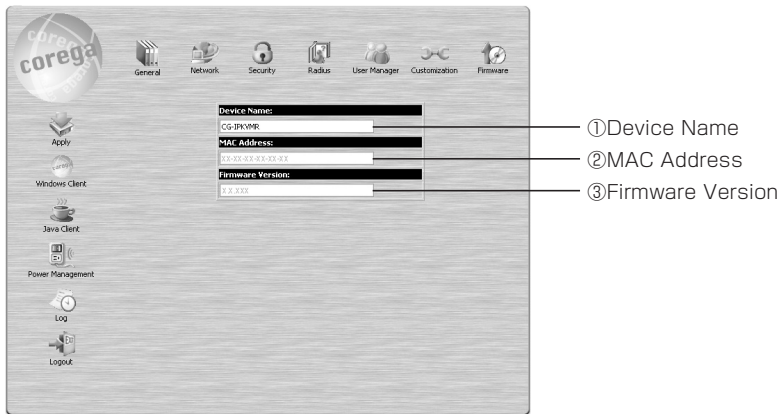
■General設定

本商品に関する基本情報が表示されます。

●「General設定」の表示

設定画面にログインすると最初に「General 設定」が表示されます。また、アドミニストレータ設定の［General］をクリックして表示できます。

●画面の説明

「General 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①Device Name	本商品を複数台導入している場合、システムの管理を簡単にするためにユニットごとに名前を付けることができます。(半角英数のみ、最大15文字)。
②MAC Address	本商品のMACアドレスを表示します。
③Firmware Version	現在のファームウェアバージョンを表示します。

3

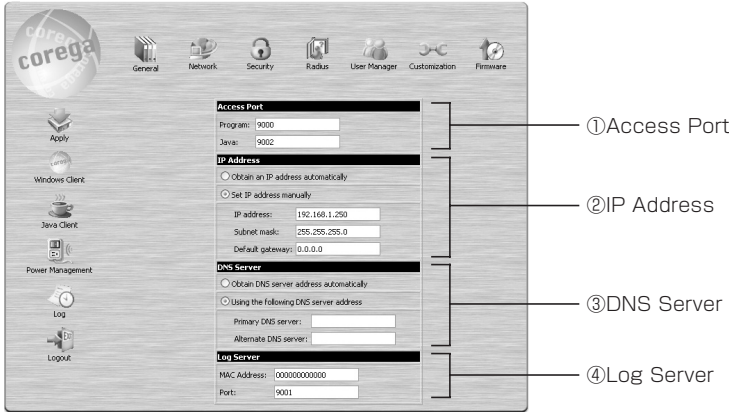
■Network設定

「Network」設定では、本商品のネットワーク環境を設定できます。

●「Network設定」の表示

アドミニストレータ設定の［Network］をクリックして「Network 設定」を表示します。

●画面の説明

「Network 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①Access Port	ネットワークにファイアウォールが導入されている場合、ファイアウォールの設定で許可されたポート番号を指定します。ネットワークにファイアウォールが導入されていない環境の場合、この項目を変更する必要はありません。
Program	「Admin Toolソフトウェア」、「Windows Clientソフトウェア」が使用するポート番号です。有効なエントリは1,024～60,000です。
Java	「Java Clientソフトウェア」が使用するポート番号です。有効なエントリは0～65,535です。
②IP Address	本商品は起動時にIPアドレス「192.168.1.250」が設定されていますが、DHCPサーバから自動的にIPアドレスを取得することもできます。IPアドレスをDHCPサーバから自動的に取得する場合は、「Obtain an IP address automatically」にチェックを付けます。固定IPアドレスを使用する場合は、「Set IP address manually」にチェックを付けて、使用するIPアドレス・サブネットマスク・デフォルトゲートウェイを入力します。

名称	内容
③DNS Server	DNSサーバのIPアドレスをDHCPサーバから自動的に取得する場合は、「Obtain DNS server address automatically」にチェックを付けます。DNSサーバを手動で設定する場合は、「Using the following DNS server address」にチェックを付けて、使用するDNSサーバを入力します。
④Log Server	ログイン情報や内部での動作内容など、本商品の重要なイベントは自動的にログに記録されます。本商品に記録されるログをログファイルとして外部に記録するには、記録先ログサーバとして使用するパソコンのMACアドレスとポート番号を登録する必要があります。設定については「PART5…ログ」(P.78)をご覧ください。

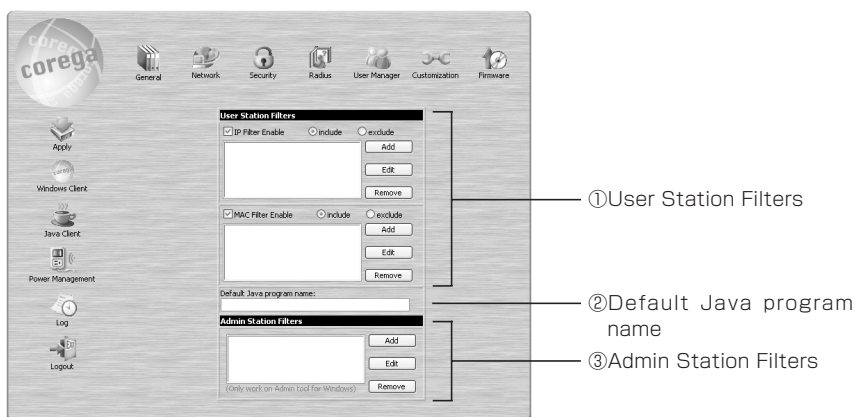
3

■Security設定

「Security 設定」では、ローカル側パソコンにアクセスするパソコンをIP アドレス・MAC アドレスでフィルタすることができます。

IPフィルタとMACフィルタを同時に満たすパソコンのみがローカル側パソコンにアクセスできます。

●「Security設定」の表示

アドミニストレータ設定の［Security］をクリックして「Security 設定」を表示します。

●画面の説明

「Security 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①User Station Filters	特定のIPアドレスおよびMACアドレスからローカル側パソコンへのアクセスを許可または禁止します。IPアドレスまたはMACアドレスを、それぞれ最大100件分「include」(アクセスを許可する)または「exclude」(アクセスを禁止する)設定ができます。フィルタ方法については次ページをご覧ください。
IP Filter Enable	IPアドレスフィルタを有効にするには、本項目にチェックを付けます。IPアドレスは単独でも範囲指定でもフィルタできます。
include	「include」にチェックを付けた場合は、指定もしくは範囲指定したIPアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて禁止します。
exclude	「exclude」にチェックを付けた場合は、指定もしくは範囲指定したIPアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを禁止します。それ以外のIPアドレスからのアクセスはすべて許可します。
MAC Filter Enable	MACアドレスフィルタを有効にするには、本項目にチェックを付けます。
include	「include」にチェックを付けた場合は、指定のMACアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを許可します。それ以外のMACアドレスからのアクセスはすべて禁止します。
exclude	「exclude」にチェックを付けた場合は、指定のMACアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを禁止します。それ以外のMACアドレスからのアクセスはすべて許可します。
②Default Java program name	「Java Clientソフトウェア」を使用する場合に設定します。本項目を設定すると、本商品の設定画面にアクセスするアドレスは、IPアドレスと「Default Java program name」を組み合わせて入力する必要があります。 例：本項目に「CG-IPKVMR」と設定した場合、設定画面へアクセスするためのアドレスは以下のとおりになります。 http://192.168.1.250/CG-IPKVMR
③Admin Station Filters	同梱のユーティリティディスク収録の「AdminToolソフトウェア」で本商品の設定を変更できるパソコンをMACアドレスで制限できます。何も指定しない場合は、すべてのパソコンで「Admin Toolソフトウェア」を使用して本商品にアクセスできます。 ※「Admin Station Filters」は「AdminToolソフトウェア」に対してのみ機能します。詳細は「Admin Toolソフトウェア」(P.57)をご覧ください。

アクセスの許可および禁止は、すべてのIPアドレスまたはMACアドレスに対して同じ設定が適用されます。

●IPアドレスフィルタの追加
以下の手順でIPアドレスフィルタを追加することができます。

1　「IP Filter Enable」にチェックを付け、フィルタの「include」(許可する)、「exclude」(禁止する)を選択します。

2　[Add]をクリックすると、以下の画面が表示されます。フィルタに追加するIPアドレスの始まりを入力して[OK]をクリックします。

3　続けて以下の画面が表示されます。フィルタに追加するIPアドレスがひとつの場合は、手順2で入力したIPアドレスと同じアドレスを入力し、[OK]をクリックします。範囲指定をする場合には範囲の終わりのIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

以上でIPアドレスフィルタの設定は完了です。

●IPアドレスフィルタの編集
以下の方法でIPアドレスフィルタを編集することができます。

1　編集したい設定を選択し、[Edit]をクリックします。

2　追加時と同様の画面が表示されますので、編集して[OK]をクリックします。

以上でIPアドレスフィルタの編集は完了です。

●IPアドレスフィルタの削除
以下の方法でIPアドレスフィルタを削除することができます。

1　削除したい設定を選択し、[Remove]をクリックします。

以上でIPアドレスフィルタの削除は完了です。

●MACアドレスフィルタの追加
以下の方法でMACアドレスフィルタを追加することができます。

1 「MAC Filter Enable」にチェックを付け、フィルタの［include］（許可する）、［exclude］（禁止する）を選択します。

2 ［Add］をクリックすると、以下の画面が表示されます。フィルタに追加するMACアドレスを入力して［OK］をクリックします。

フィルタに追加するMACアドレスを入力します。

以上でMACアドレスフィルタの設定は完了です。

●MACアドレスフィルタの編集
以下の手順でMACアドレスフィルタを編集することができます。

1 編集したい設定を選択し、［Edit］をクリックします。

2 追加時と同様の画面が表示されますので、編集して［OK］をクリックします。

以上でMACアドレスフィルタの編集は完了です。

●MACアドレスフィルタの削除
以下の手順でMACアドレスフィルタを削除することができます。

1 削除したい設定を選択し、［Remove］をクリックします。

以上でMACアドレスフィルタの削除は完了です。

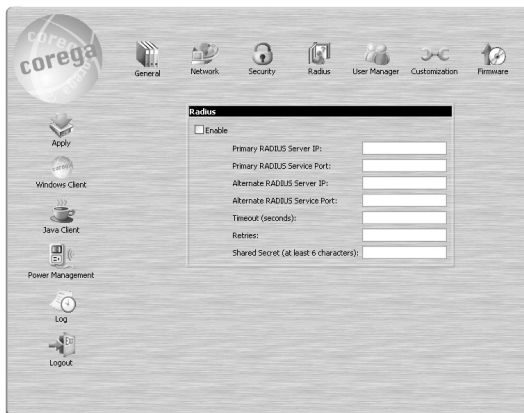
■Radius設定

「Radius 設定」は Radius サーバを使用する場合に設定します。

●「Radius設定」の表示

アドミニストレータ設定の［Radius］をクリックして「Radius 設定」を表示します。

●画面の説明

「Radius 設定」は以下の画面で構成されます。

Radius サーバを使用する場合には、「Enable」にチェックを付け、Radius サーバの設定にしたがって入力してください。

3

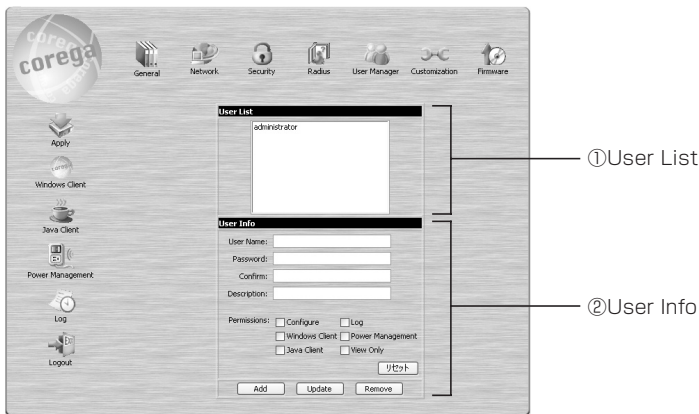
■User Manager設定

「User Manager設定」ではユーザアカウントの登録・編集・削除など、各ユーザアカウントの設定・管理ができます。

●「User Manager設定」の表示

アドミニストレータ設定の［User Manager］をクリックして「User Manager設定」を表示します。

●画面の説明

「User Manager 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①User List	現在登録されているユーザアカウントの一覧が表示されます。
②User Info	「User List」で選択したユーザアカウントの詳細が表示されます。
User Name	英数最小6文字、最大15文字で作成してください。
Password	英数最小8文字、最大15文字で作成してください。
Confirm	確認のため、パスワードを再入力します。入力が一致する必要があります。
Description	必要があればユーザについての追加情報を入力してください。
Permissions	ユーザアカウントごとに設定画面の左側にある各操作アイコンの操作の可／不可を設定できます。
Configure	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントはアドミニストレータ設定で本商品の設定が可能になります。
Windows Client	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Windows Clientソフトウェア」を使用してローカル側パソコンを操作できます。
Java Client	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Java Clientソフトウェア」を使用してローカル側パソコンを操作できます。
Log	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Logアイコン」から本商品のログを見ることができます。「Logアイコン」の説明については、「PART5…ログ」(P.78)をご覧ください。
Power Management	現時点では本機能をご利用できません。
View Only	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Windows Clientソフトウェア」または「Java Clientソフトウェア」を使用して、ローカル側パソコンの画面を見ることができます。操作することはできません。

●ユーザアカウントの追加
以下の手順でユーザアカウントを追加することができます。

1　ユーザアカウントを追加する場合は、「User Info」の「User Name」、「Password」、「Confirm Password」、「Description」、「Permissions」の各項目を入力した後、［Add］をクリックします。

以上で、ユーザアカウントの追加は完了です。

ユーザアカウントは最大63アカウントまで追加できます。

●ユーザアカウントの編集
以下の手順でユーザアカウントを編集することができます。

1　編集したいユーザアカウントを「User List」で選択し、「User Info」の各項目を編集します。

2　編集が終わったら、［Update］をクリックします。

以上で、ユーザアカウントの編集は完了です。

●ユーザアカウントの削除
以下の手順でユーザアカウントを削除することができます。

1　削除したいユーザアカウントを「User List」で選択し、［Remove］をクリックします。

以上で、ユーザアカウントの削除は完了です。

［リセット］をクリックすると「User List」でどのユーザアカウントも選択されていない状態になります。

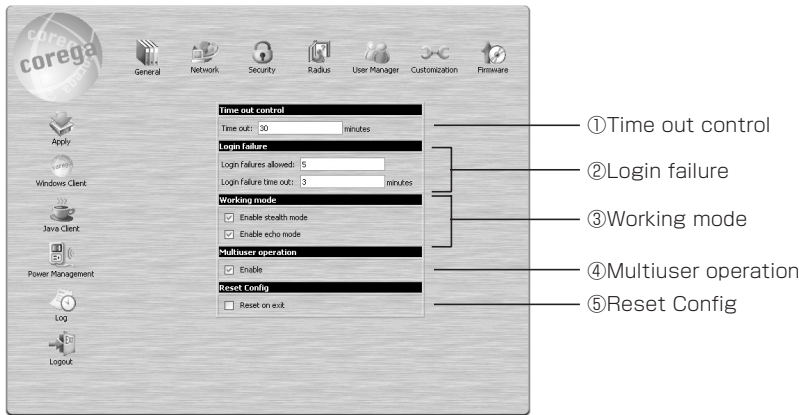
■Customization設定

「Customization設定」ではタイムアウト・ログイン失敗・動作モード・リセットに関する設定を行うことができます。

●「Customization設定」の表示

アドミニストレータ設定の［Customization］をクリックして「Customization設定」を表示します。

●画面の説明

「Customization設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①Time out control	ローカル側パソコンからタイムアウトする時間を分単位で設定できます。「Windows Clientソフトウェア」などで一定時間アクセスがなかった場合にローカル側パソコンとの接続を切断します。
②Login failure	本商品へのログイン失敗時の設定ができます。
Login failures allowed	本商品にログインしようとするリモート側パソコンのログイン失敗回数を設定できます。
Login failure time out	上記で設定した回数のログインに連続して失敗したリモート側パソコンは、ここで指定された時間が経過するまでは再度ログインすることができません。

名称	内容
③Working mode	本商品の動作に関する設定ができます。
Enable stealth mode	本項目にチェックを付けた場合、本商品はpingに応答しません。
Enable echo mode	本項目にチェックを付けない場合、エコーが無効になり、「Windows Clientソフトウェア」や「Admin Toolソフトウェア」のリスト上に表示されません。詳細は「Windows Clientソフトウェア」(P.38)および「Admin Toolソフトウェア」(P.57)をご覧ください。
④Multiuser operation	「Enable」にチェックを付けた場合、複数のリモート側パソコンが同時にローカル側パソコンにログインすることができます。「Enable」にチェックを付けない場合、複数のリモート側パソコンから同時にローカル側パソコンにログインすることはできません。
⑤Reset Config	「Reset on exit」にチェックを付けた場合、ログアウト時に本商品を再起動して設定変更を反映します。再起動には30〜60秒程度かかります。再度ログインするには時間を空けてください。

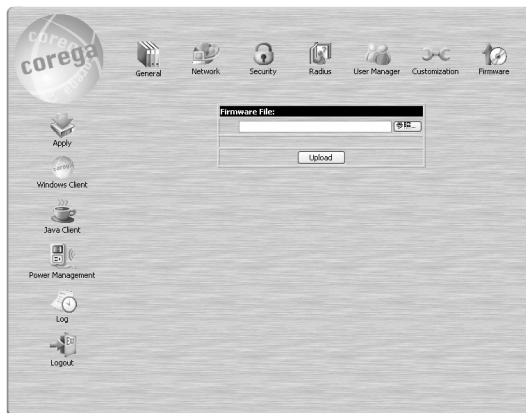
■Firmware設定

「Firmware 設定」では本商品のファームウェアを更新することができます。

●「Firmware設定」の表示

アドミニストレータ設定の［Firmware］をクリックして「Firmware 設定」を表示します。

●画面の説明

「Firmware 設定」は以下の画面で構成されます。

●ファームウェアの更新

以下の手順でファームウェアを更新することができます。

1. ［参照］をクリックします。
2. ファイルを選択する画面が表示されますので、ファームウェアファイルを指定して［開く］をクリックします。
3. 「Firmware file:」に指定したファイルが入力されますので、［Upload］をクリックするとファームウェアの更新が始まります。

以上でファームウェアの更新は完了です。

本商品の最新版のファームウェアはコレガホームページよりダウンロードすることができます。

3

Windows Clientソフトウェア

「Windows Client ソフトウェア」や「Java Client ソフトウェア」を使用することで、リモート側パソコンで本商品に接続したローカル側パソコンを操作することができます。本項目では、「Windows Client ソフトウェア」の起動および、設定・操作方法の説明をします。

●準備

「Windows Clientソフトウェア」を使用するパソコンにはDirectX 7.0以降をインストールする必要があります。もしインストールされていない場合は、下記マイクロソフト株式会社の DirectX のホームページから最新版をダウンロードしてインストールしてください。（2006 年 12 月現在）

http://www.microsoft.com/japan/windows/directx/default.mspx

●「Windows Clientソフトウェア」の起動

「Windows Client ソフトウェア」の起動方法は、本商品の設定画面の「Windows Client アイコン」から毎回起動する方法と、同梱のユーティリティディスクからインストールして起動する方法があります。本項目では、設定画面の「Windows Clientアイコン」から起動する方法を案内します。ユーティリティディスクからインストールする方法は、「PART4…ユーティリティディスク」（P.56）をご覧ください。

1　本商品の設定画面にログインします。ログイン後、左側にある操作アイコンの「Windows Client アイコン」をクリックします。

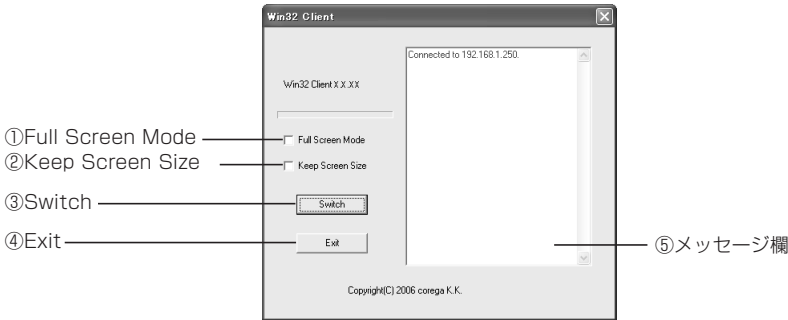
2　以下の画面が表示されるので、[実行] をクリックします (画面はWindows XPの場合です)。

[実行]をクリックします。

Webブラウザから直接「Windows Clientソフトウェア」を実行できない場合は、手順2の画面で［保存］をクリックして保存してください。その後、本商品の設定画面を開いたまま、保存した「Windows Client ソフトウェア」を実行してください。「Windows Clientソフトウェア」は毎回本商品の設定画面から実行する必要があります。頻繁に「Windows Client ソフトウェア」を使用する場合は、「PART4…ユーティリティディスク」（P.56）をご覧になって、パソコンに「Windows Clientソフトウェア」をインストールし、そちらを使用してください。

3　「Windows Clientソフトウェア」が起動すると、起動画面が表示されます。本商品へ接続すると、「Windows Client 画面」が表示されます。

■Windows Client画面

「Windows Client画面」では、ローカル側パソコンの画面出力の設定と、「Remote View画面」を起動してローカル側パソコンへの切り替えを行うことができます。

名称	内容
①Full Screen Mode	ローカル側パソコンの画面出力をリモート側パソコンに出力するときの表示方法を設定します。「Full Screen Mode」にチェックが付いている場合は「Remote View画面」をフルスクリーンで表示します。チェックが付いていない場合はウィンドウ表示になります。
②Keep Screen Size	「Keep Screen Size」にチェックが付いていない場合は、ローカル側パソコンの画面解像度を変更することで、「Remote View画面」の画面サイズも変更されます。
③Switch	[Switch]をクリックすると「Remote View画面」を表示し、ローカル側パソコンの画面出力とコンソール操作をリモート側パソコンに切り替えます。
④Exit	「Windows Clientソフトウェア」を終了します。
⑤メッセージ欄	「Windows Clientソフトウェア」と本商品の状態が表示されます。

●ローカル側パソコンの画面出力の設定

一覧表の「Full Screen Mode」と「Keep Screen Mode」でローカル側パソコンの画面出力に関する設定ができます。

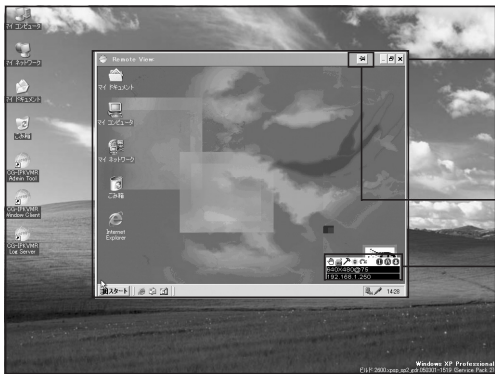
●ローカル側パソコンへの切り替え

1　[Switch] をクリックします。

2　「Remote View画面」が起動します。「Remote View画面」内でローカル側パソコンを操作することができます。

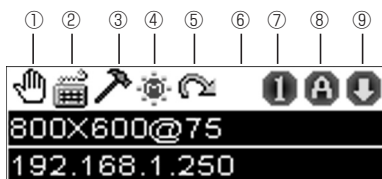
以上でローカル側パソコンへの切り替えは完了です。

■Remote View画面

「Remote View 画面」では、ローカル側パソコンの操作や、「OSD コントロールパネル画面」を表示して各種設定を行うことができます。

名称	内容
①Remote View画面（ローカル側パソコンの画面出力）	本商品に接続したローカル側パソコンの画面出力がリモート側パソコンのディスプレイ上に「Remote View画面」として表示されます。「Remote View画面」内でのリモート側パソコンのキーボード・マウス操作は、ローカル側パソコンの操作になります。リモート側ディスプレイの解像度がローカル側ディスプレイより小さい場合は、マウスポインタを「Remote View画面」の端まで移動させることでスクロールできます。
②リモート側パソコンの画面出力	リモート側パソコンのデスクトップです。
③ピンアイコン	「Remote View画面」をリモート側パソコンの最前面に表示させることができます。
	「Remote View画面」を最前面に固定しません。
	「Remote View画面」を常に最前面に表示させます。
④OSDコントロールパネル	ローカル側パソコンの状態表示や各種設定画面を呼び出すことができます。詳細は「ＯＳＤコントロールパネル」(P.42)をご覧ください。

- 「Remote View画面」を表示した直後は、ローカル側パソコンの「Num Lock アイコン」「Caps Lock アイコン」「Scroll Lock アイコン」の表示およびマウスの位置がリモート側パソコンと正しく同期していない場合があります。同期していない場合は、「Num Lockアイコン」「Caps Lockアイコン」「Scroll Lockアイコン」をクリックして同期させてください。詳細は「OSDコントロールパネル」（次ページ）をご覧ください。マウスの同期については、「Hotkey Setup画面」の「Adjust mouse」（P.43）をご覧ください。画面の同期については、「Video Options画面」の「Auto-Sync」（P.45）をご覧ください。
- ネットワーク転送で発生するタイムラグによって、リモート側パソコンの操作がローカル側パソコンへ反映される時間に遅延が生じる場合があります。ローカル側パソコンでマウスクリックを行う場合のマウスポインタの挙動にご注意ください。また、動画の表示遅れやコマ落ちなどが発生する場合があります。

■OSDコントロールパネル

OSD（オンスクリーンディスプレイ）は小さなパネルで表示されます。上部１行のアイコンバーから各種設定画面が起動できます。下部２行のテキストバーに状態が表示されます。初期画面では、テキストバーにはローカル側パソコンのディスプレイ解像度とIPアドレスが表示されています。マウスポインタをアイコンの上に移動させると、テキストバーにそのアイコンの機能が表示されます。以下の内容を「OSD コントロールパネル」で設定できます。

名称	内容
①移動アイコン	このアイコンをドラッグすることによって「OSDコントロールパネル」を「Remote View画面」内の好きな場所に移動できます。
②Hotkey Setupアイコン	クリックすると「Hotkey Setup画面」を表示します。「Hotkey Setup画面」の詳細は（次ページ）をご覧ください。
③Video Optionsアイコン	クリックすると「Video Options画面」を表示します。「Video Options画面」の詳細は（P.45）をご覧ください。
④Message Boardアイコン	クリックすると「Message Board画面」を表示します。本商品にログインしているユーザ間でメッセージをやりとりすることができます。「Message Board画面」の詳細は（P.46）をご覧ください。
⑤終了アイコン	クリックすると「Remote View画面」を閉じます。
⑥スペース	マウスポインタをスペースに移動させると、ローカル側の画面解像度と、本商品のIPアドレスを表示します。
⑦Num Lockアイコン	ローカル側パソコンの「Num Lock」の状態を表します。「Num Lock」がオンのときは点灯、オフのときは消灯します。
⑧Caps Lockアイコン	ローカル側パソコンの「Caps Lock」の状態を表します。「Caps Lock」がオンのときは点灯、オフのときは消灯します。
⑨Scroll Lockアイコン	ローカル側パソコンの「Scroll Lock」の状態を表します。「Scroll Lock」がオンのときは点灯、オフのときは消灯します。

■Hotkey Setup画面

キーボード・マウス・ディスプレイに関するホットキーの設定をすることができます。「Hotkey Setup 画面」は「OSD コントロールパネル」の「Hotkey Setup アイコン」をクリックすることで呼び出すことができます。ホットキー設定の工場出荷時の設定は、「付録」の「工場出荷時の設定一覧」（P.100）をご覧ください。

名称	内容
①Actions	ホットキーで動作できる内容が表示されています。
Exit remote location	「Remote View画面」を閉じ、「Windows Client画面」に戻ります。
Adjust Video	「Video Options画面」を表示します。詳細は「Video Options画面」（P.45）をご覧ください。
Toggle OSD	「OSDコントロールパネル」のオン/オフを切り替えます。
Toggle mouse display	「Remote View画面」上のリモート側パソコンのマウスポインタを、十字型と丸型に切り替えることができます。もう一度このホットキー操作を行うと元の状態に戻ります。
Adjust mouse	この機能は解像度変更後、ローカルとリモートのマウス動作を同期します。この機能を有効にした後、リモートのマウスポインタをローカルのマウスポインタ上に正確に重ね合わせて左クリックすると同期が完了します。
Substitute Alt key	ローカル側パソコンを操作中は、リモート側パソコンの[Alt]+[Tab]と[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を除いたすべてのキーボード入力がローカル側パソコンに送られます。ローカル側パソコンに対して[Alt]+[Tab]と[Ctrl]+[Alt]+[Delete]の機能を実行したい場合は、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定する必要があります。初期設定では[F12]キーが割り当てられています。 例）初期設定の場合、[Alt]+[Tab]は[F12]+[Tab]で、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]は[Ctrl]+[F12]+[Delete]になります。 ※[Alt]キーの代替として設定しているキーは、他のホットキーに使用しないでください。
Substitute Ctrl key	左右のどちらの「Ctrl」キーを割り当てるかを設定できます。

名称	内容
②Hotkeys	「Actions」のそれぞれの動作に対応するホットキー操作が表示されています。
③Keys	ホットキー操作を変更する場合に、変更したいキー操作を記録します。ホットキーの変更方法については、下記「ホットキー設定変更」をご覧ください。
④Close	「Hotkey Setup画面」を閉じます。

・ホットキー操作でキーを押した後は、すぐにキーを離してください。キー操作にタイムラグがありますので、キーを押したままにすると予期しない動作をしたり、不安定になるおそれがあります。

・ホットキー操作は「Windows Client ソフトウェア」のみで使用できます。「Java Client ソフトウェア」では使用できません。

●ホットキー設定変更

初期設定されているホットキーの組み合わせで不都合がある場合は、下記の手順で任意のファンクションキーをホットキーに割り当てることができます。

1 「Hotkey Setup 設定」の「Actions」で、変更したいホットキー操作を選択し、［Start］をクリックします。

2 ［F1］～［F12］の任意のキーを入力します。入力したキーが画面下の「Keys」欄に表示されます。

3 使用するキー入力を終えたら［Stop］をクリックします。入力したキー操作で設定する場合は、［Set］をクリックします。

以上でホットキーの変更は完了です。その他の変更したいホットキーについても同様の手順で変更します。

ホットキーを割り当てる場合に同じファンクションキーを使用しても、入力する順序を入れ替えれば複数のホットキー操作を割り当てることができます。ただし、この場合には最初に入力するキーを変えてください。また、他のホットキー入力と重複しないよう気をつけて設定してください。

例）以下のように［F1］［F2］［F3］のみを用いて複数の操作として割り当てることができます。

・［F1］［F2］［F3］

・［F2］［F1］［F3］

・［F3］［F2］［F1］

■Video Options画面

「Video Options画面」は、ご使用の環境に合わせてリモート側ディスプレイの中でのローカル側ディスプレイの表示位置と画質を調整できます。「OSD コントロールパネル」の「Video Optionsアイコン」(P.42)をクリックするか、ホットキー操作で「Adjust Video」(P.43)を呼び出すと、以下の画面が表示されます。

名称	内容
①Screen position	ローカル側ディスプレイの水平方向、垂直方向の調節ができます。
②Auto-Sync	ローカル側ディスプレイの水平方向・垂直方向をリモート側ディスプレイと自動同期させせます。またローカル側とリモート側のマウスポインタが同期されていないときにこの機能で同期させることができます。 ※この機能は画面の表示が明るいときでないと十分に効果が発揮されません。自動同期されない場合は、「Screen position」の矢印ボタンを使って手動で設定し直してください。
③RGB	スライドバーを使ってRGB(レッド、グリーン、ブルー)値を調節することができます。
④Video Quality	ローカル側ディスプレイの画質を調節できます。Min(画質最低)からMax(画質最高)にスライドさせるほど画質は向上しますが、その分ネットワークの負荷が高くなります。
⑤Sense	ローカル側ディスプレイのガンマ値を調整できます。調整する場合は、「Enabled」にチェックを付けてスライドバーをスライドしてください。
⑥OK	設定を保存します。
⑦Cancel	設定をキャンセルします。

■Message Board画面

本商品は複数のユーザアカウントでのローカル側パソコンへのログインに対応しています。Message Board を使用して、ログインしているユーザ間でのメッセージのやりとりや、ローカル側パソコンの操作を専有することができます。

名称	内容
①ユーザ状態アイコン	メッセージのやりとりの参加／不参加を切り替えることができます。このアイコンが押されていない状態が参加で、押されている状態が不参加です。不参加時は右のユーザリストにが付きます。
②パソコン状態アイコン	ローカル側パソコンの操作と画面出力を専有することができます。他のユーザはローカル側パソコンの操作のほか、画面出力を見ることもできません。このアイコンが押されていない状態は専有していません。アイコンが押されている状態は専有しています。専有時は右のユーザリストにが付きます。
③ディスプレイ状態アイコン	ローカル側パソコンの操作のみを専有することができます。他のユーザはローカル側パソコンの操作をすることはできませんが、画面の出力を見ることはできます。このアイコンが押されていない状態は専有していません。アイコンが押されている状態は専有しています。専有時は右のユーザリストにが付きます。
④リストアイコン	右側の「ユーザリスト」の表示／非表示を切り替えることができます。また、ユーザの状態はそれぞれリスト上のユーザ名の左に各状態アイコンで表示されます。このアイコンが押されていない状態はリストを表示しません。アイコンが押されている状態はリストを表示します。初期状態はアイコンが押されている状態です。
⑤メッセージ欄	各ユーザのメッセージが表示されます。
⑥ユーザリスト	ログインしているユーザアカウントのリストが表示されます。
⑦発言欄	ここに発言を入力します。

●メッセージのやりとり

ログインしているユーザ間でメッセージをやりとりできます。

1 「ユーザ状態アイコン」でメッセージのやりとりに参加しているか確認します。参加になっていない場合は、「ユーザ状態アイコン」をクリックして参加にしてください。

2 発言欄にメッセージを入力し、[Send] をクリックします。

3 メッセージ欄に発言したメッセージが表示されます。また、他のユーザが発言したメッセージも表示されます。

以上の繰り返しで、ログインしているユーザ間でメッセージをやりとりできます。

●ローカル側パソコンの操作および画面出力を専有する

1 「パソコン状態アイコン」をクリックします。

以上でローカル側パソコンの操作および画面出力を専有できます。他のユーザはローカル側パソコンを操作することも、画面出力を見ることもできません。

●ローカル側パソコンの操作および画面出力の専有を解除する

1 ローカル側パソコンの操作および画面出力を専有した状態で、再度「パソコン状態アイコン」をクリックします。

以上で専有を解除します。

●ローカル側パソコンの操作のみを専有する

1 「ディスプレイ状態アイコン」をクリックします。

以上でローカル側パソコンの操作のみを専有できます。他のユーザはローカル側パソコンを操作することはできませんが、画面出力を見ることはできます。

●ローカル側パソコンの操作の専有を解除する

1 ローカル側パソコンの操作を専有した状態で、再度「パソコン状態アイコン」をクリックします。

以上で専有を解除します。

●Message Boardを終了する

1 「Message Board 画面」右上の [×] をクリックします。

以上で Message Board を終了します。

Java Clientソフトウェア

「Windows Client ソフトウェア」や「Java Client ソフトウェア」を使用することで、本商品に接続したローカル側パソコンを操作することができます。本項目では、「Java Client ソフトウェア」の起動および、設定・操作方法の説明をします。

●準備

「Java Client ソフトウェア」を使用するパソコンには Java 2JRE1.4 以降をインストールする必要があります。もしインストールされていない場合は、下記サン・マイクロシステムズ株式会社のJavaのホームページから最新版をダウンロードしてインストールしてください。(2006 年 12 月現在)

http://jp.sun.com/

●「Java Clientソフトウェア」の準備

「Java Client ソフトウェア」を使用するには、アドミニストレータ設定の「Default Java program name」を設定する必要があります。詳細は「Security 設定」の「Default Java program name」(P.28)をご覧ください。

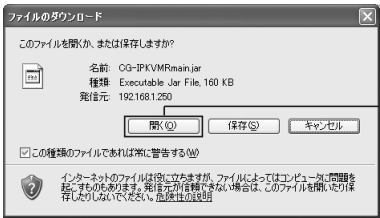
本項目では、以下の設定が完了している状態で説明します。

Default Java program name	CG-IPKVMR
本商品の設定画面のアドレス	192.168.1.250/CG-IPKVMR

●「Java Clientソフトウェア」の起動

「Java Client ソフトウェア」の起動方法は、本商品の設定画面の「Java Client アイコン」から起動する方法と、同梱のユーティリティディスクからコピーして使用する方法があります。本項目では、設定画面の「Java Client アイコン」から起動する方法を案内します。ユーティリティディスクからコピーして使用する方法は、「PART4…ユーティリティディスク」(P.56)をご覧ください。

1 本商品の設定画面にログインします。ログイン後、左側にある操作アイコンの「Java Client アイコン」をクリックします。

2 下記の図が表示されるので、[開く] をクリックします (画面は Windows XP の場合です)。

Web ブラウザから直接「Java Client ソフトウェア」を実行できない場合は同梱のユーティリティディスクの「Java Clientソフトウェア」を使用してください。詳細は「PART4…ユーティリティディスク」（P.56）をご覧ください。

3　「Java Clientソフトウェア」が起動すると、起動画面が表示されます。自動認証され、「Java Client画面」が表示されます。

■Java Client画面

「Java Client画面」では、ローカル側パソコンの操作や、「Javaツールバー」から各種設定を行うことができます。

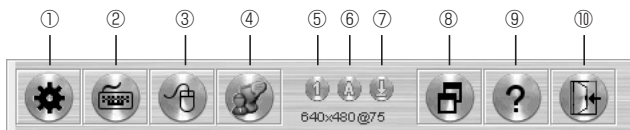
「Javaツールバー」は、スクリーン下部中央のブランクエリアに隠れています。マウスポインタをこのエリアに移動させると、「Javaツールバー」が表示されます。

名称	内容
①Java Client画面（ローカル側パソコンの画面出力）	本商品に接続したローカル側パソコンの画面出力がリモート側パソコンのディスプレイ上に「Java Client画面」として表示されます。「Java Client画面」内でのキーボード・マウス操作は、ローカル側のパソコンの操作になります。リモート側ディスプレイの解像度がローカル側ディスプレイより小さい場合は、マウスポインタを「Java Client画面」の端まで移動させることでスクロールできます。
②リモート側パソコンの画面出力	リモート側パソコンのデスクトップです。
③Javaツールバー	「Javaツールバー」は、ローカル側パソコンの状態表示や各種設定画面を表示することができます。詳細は「Javaツールバー」（次ページ）をご覧ください。

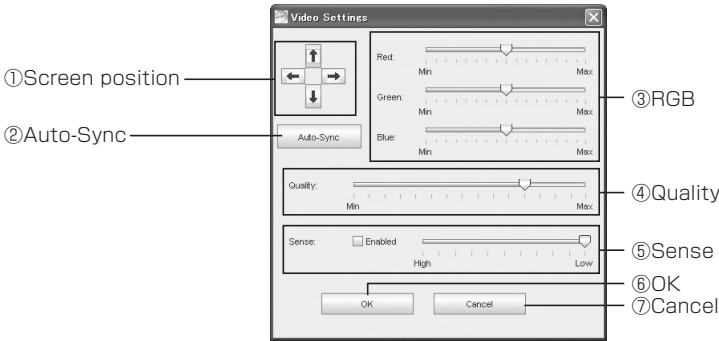
・「Java Client 画面」を表示した直後は「Num Lock アイコン」「Caps Lock アイコン」「Scroll Lockアイコン」の表示およびマウスの位置がローカル側パソコンと正しく同期していない場合があります。同期していない場合は、「Num Lockアイコン」「Caps Lockアイコン」「Scroll Lockアイコン」をクリックして同期させてください。また、「Mouse synchronizationアイコン」をクリックしてマウスを同期させてください。詳細は「Mouse synchronization アイコン」（P.51）をご覧ください。
・「Mouse synchronization アイコン」で解決しない場合は、「Video Settings 画面」の「Auto-Sync」（P.52）を実行してください。
・ネットワーク転送で発生するタイムラグによって、リモート側パソコンの操作がローカル側パソコンへ反映される時間に遅延が生じる場合があります。ローカル側パソコンでマウスクリックを行う場合のマウスポインタの挙動にご注意ください。また、動画の表示遅れやコマ落ちなどが発生する場合があります。

［Alt］+［Tab］でローカル側とリモート側の操作を切り替えます。

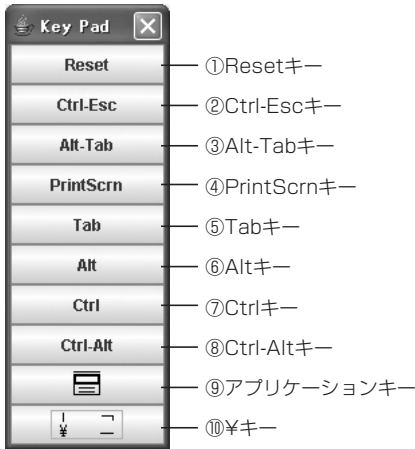
■Javaツールバー

スクリーン下部中央に表示される「Java ツールバー」は、本商品管理用の Java アプレットです。初期画面では「Java ツールバー」の中央にローカル側パソコンのディスプレイ解像度と周波数が表示されます。ツールバーの左から順に機能を説明します。

名称	内容
①Set video parameters アイコン	クリックすると「Video Settings画面」を表示します。設定内容は「Windows Clientソフトウェア」の「Video Options画面」に準じます。詳細は(P.45)をご覧ください。
②Key Padアイコン	クリックすると「Key Pad画面」を表示します。特定のキー入力の代用ができます。
③Mouse synchronization アイコン	マウスの同期を取ります。リモートのマウスポインタをローカルのマウスポインタ上に正確に重ねあわせて左クリックすると同期が完了します。
④Message Boardアイコン	「Message Board画面」を表示します。「Windows Clientソフトウェア」の「Message Board画面」に準じます。
⑤Num Lockアイコン	ローカル側パソコンの「Num Lock」の状態を表します。「Num Lock」がオンのときは点灯、オフのときは消灯します。クリックするとオン／オフが切り替わります。
⑥Caps Lockアイコン	ローカル側パソコンの「Caps Lock」の状態を表します。「Caps Lock」がオンのときは点灯、オフのときは消灯します。クリックするとオン／オフが切り替わります。
⑦Scroll Lockアイコン	ローカル側パソコンの「Scroll Lock」の状態を表します。「Scroll Lock」がオンのときは点灯を、オフのときは消灯します。クリックするとオン／オフが切り替わります。
⑧Switch screen mode アイコン	「Java Client画面」の全画面表示とウィンドウ表示を切り替えます。
⑨Helpアイコン	Helpページを表示します。
⑩Exitアイコン	「Java Clientソフトウェア」を終了します。

■Video Settings画面

「Video Settings画面」は、ご使用の環境に合わせてリモート側ディスプレイの中でのローカル側ディスプレイの表示位置と画質を調整できます。「Javaツールバー」の「Set video parametersアイコン」（P.50）をクリックすると、以下の画面が表示されます。

名称	内容
①Screen position	ローカル側ディスプレイの水平方向・垂直方向の調節ができます。
②Auto-Sync	ローカル側ディスプレイの水平方向・垂直方向をリモート側ディスプレイと自動同期させます。またローカル側とリモート側のマウスポインタが同期されていないときにこの機能で同期させることができます。 ※この機能は画面の表示が明るいときでないと十分に効果が発揮されません。自動同期されない場合は、「Screen Position」の矢印ボタンを使って手動で設定し直してください。
③RGB	スライドバーを使ってRGB(レッド、グリーン、ブルー)値を調節することができます。
④Quality	ローカル側ディスプレイの画質を調節できます。Min(画質最低)からMax(画質最高)にスライドさせるほど画質は向上しますが、その分ネットワークの負荷が高くなります。
⑤Sense	ローカル側ディスプレイのガンマ値を調整できます。調整する場合は、「Enabled」にチェックを付けてスライドバーをスライドしてください。
⑥OK	設定を保存します。
⑦Cancel	設定をキャンセルします。

■Key Pad画面

リモート側パソコンのキーボード入力が反映されなくなった場合に、本機能を使用して各キー入力を代用することができます。

名称	内容
①Resetキー	[Ctrl]-[Alt]-[Del]の代用キーです。
②Ctrl-Escキー	[Ctrl]-[Esc]の代用キーです。
③Alt-Tabキー	[Alt]-[Tab]の代用キーです。
④PrintScrnキー	[PrintScreen]の代用キーです。
⑤Tabキー	[Tab]の代用キーです。
⑥Altキー	[Alt]の代用キーです。
⑦Ctrlキー	[Ctrl]の代用キーです。
⑧Ctrl-Altキー	[Ctrl]-[Alt]の代用キーです。
⑨アプリケーションキー	アプリケーションキーの代用キーです。
⑩¥キー	[¥]の代用キーです。

■Message Board画面

「Message Board 画面」では、ログインしているユーザ間でのメッセージのやりとりや、ローカル側パソコンの操作を専有することができます。

名称	内容
①ユーザ状態アイコン	メッセージのやりとりの参加／不参加を切り替えることができます。このアイコンが押されていない状態が参加で、押されている状態が不参加です。不参加時は右のユーザリストにが付きます。
②パソコン状態アイコン	ローカル側パソコンの操作と画面出力を専有することができます。他のユーザはローカル側パソコンの操作のほか、画面出力を見ることもできません。このアイコンが押されていない状態は専有していません。アイコンが押されている状態は専有しています。専有時は右のユーザリストにが付きます。
③ディスプレイ状態アイコン	ローカル側パソコンの操作のみを専有することができます。他のユーザはローカル側パソコンの操作をすることはできませんが、画面の出力を見ることはできます。このアイコンが押されていない状態は専有していません。アイコンが押されている状態は専有しています。専有時は右のユーザリストにが付きます。
④メッセージ欄	各ユーザのメッセージが表示されます。
⑤ユーザリスト	ログインしているユーザアカウントのリストが表示されます。
⑥発言欄	ここに発言を入力します。

●メッセージのやりとり
ログインしているユーザ間でメッセージをやりとりできます。

1 「ユーザ状態アイコン」でメッセージのやりとりに参加しているか確認します。参加になっていない場合は、「ユーザ状態アイコン」をクリックして参加にしてください。

2 発言欄にメッセージを入力し、[Send] をクリックします。

3 メッセージ欄に発言したメッセージが表示されます。また、他のユーザが発言したメッセージも表示されます。

以上の繰り返しで、ログインしているユーザ間でメッセージをやりとりできます。

●ローカル側パソコンの操作および画面出力を専有する
1 「パソコン状態アイコン」をクリックします。

以上でローカル側パソコンの操作および画面出力を専有できます。他のユーザはローカル側パソコンを操作することも、画面出力を見ることもできません。

●ローカル側パソコンの操作および画面出力の専有を解除する
1 ローカル側パソコンの操作および画面出力を専有した状態で、再度「パソコン状態アイコン」をクリックします。

以上で、専有を解除します。

●ローカル側パソコンの操作のみを専有する
1 「ディスプレイ状態アイコン」をクリックします。

以上でローカル側パソコンの操作のみを専有できます。他のユーザはローカル側パソコンを操作することはできませんが、画面出力を見ることはできます。

●ローカル側パソコンの操作の専有を解除する
1 ローカル側パソコンの操作を専有した状態で、再度「パソコン状態アイコン」をクリックします。

以上で、専有を解除します。

●Message Boardを終了する
1 「Message Board 画面」右上の [×] をクリックします。

以上で、Message Board 画面を終了します。

3

PART 4

ユーティリティディスク

本章では同梱のユーティリティディスクに収録しているソフトウェアを説明します。

Admin Toolソフトウェア

「Admin Tool ソフトウェア」は、本商品の設定画面のアドミニストレータ設定と同等の設定を行うことができる Windows 用ソフトウェアです。

初期設定時は本商品の動作確認のためにも、本商品の設定画面からログインして動作確認・設定を行ってください。本ソフトウェアは設定完了後の通常運用時にご使用ください。

Windows Clientソフトウェア

「Windows Client ソフトウェア」は、本商品の設定画面から起動する「Windows Client ソフトウェア」と同等の操作ができるWindows用ソフトウェアです。本ソフトウェアをインストールすることで、毎回本商品の設定画面にログインして「Windows Client ソフトウェア」を起動しなくてもローカル側パソコンを操作することができます。

初期設定時は本商品の動作確認のためにも、本商品設定画面の「Windows Clientアイコン」をクリックして起動する方法をおすすめします。ユーティリティディスク収録の「Windows Client ソフトウェア」は、すべての設定完了後の通常運用時にご使用ください。

Java Clientソフトウェア

「Java Clientソフトウェア」は、本商品の設定画面から起動する「Java Clientソフトウェア」とまったく同じ操作ができます。本ソフトウェアをユーティリティディスクからコピーして使用することで、毎回本商品の設定画面にログインしなくても「Java Client ソフトウェア」を起動してローカル側パソコンを操作することができます。

Log Serverソフトウェア

本商品に記録されたログを「Log Serverソフトウェア」を動作させているパソコンで記録・分析することができます。詳細は「PART5…ログ」(P.78)をご覧ください。

Admin Toolソフトウェア

「Admin Tool ソフトウェア」は、本商品の設定画面のアドミニストレータ設定と同等の設定を行うことができるWindows用ソフトウェアです。複数台の本商品を一画面で管理する場合に便利です。

●「Admin Toolソフトウェア」のインストール方法

以下の手順で「Admin Tool ソフトウェア」をインストールします。

1　ユーティリティディスク内の「admin」フォルダにある「CG-IPKVMRAdminTool.exe」をダブルクリックします。

2　インストール画面が表示されますので、画面の指示にしたがってインストールを行います。

3　インストール完了の画面まで進んだら、［完了］をクリックします。

以上で、「Admin Tool ソフトウェア」のインストールが完了します。

●「Admin Toolソフトウェア」の起動方法

以下の手順で「Admin Tool ソフトウェア」を起動します。

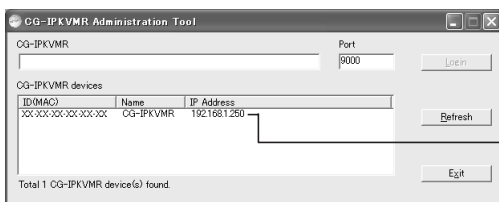
1　「スタート」－「すべてのプログラム」－「CG-IPKVMR」－「CG-IPKVMRAdminTool」をクリックします。

2　初回起動時のみ以下の画面が表示されます。下記のシリアル番号を入力し、[OK] をクリックします。

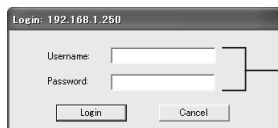
シリアル番号	XT7B5-Z1S0C-U0850-CA4E1

・「0」はすべて数字のゼロです。
・シリアル番号の入力を間違えた場合、エラーメッセージが表示されます。シリアル番号を確認の上、再度入力してください。

4

3　正しいシリアル番号を入力すると、「AdminTool ソフトウェア」の選択画面が起動します。「CG-IPKVMR devices」に表示された本商品のうち、ログインしたいものをダブルクリックします。

初期設定時、本商品のIPアドレスは192.168.1.250、サブネットマスクは255.255.255.0に設定されています。お客様のご使用のネットワークと環境が異なる場合は、「CG-IPKVMR devices」欄にリストアップされてもそこから本商品にログインすることはできません。この場合は「PART2…本商品との接続」（P.15）と「PART3…本商品の詳細設定」（P.23）をご覧の上、本商品のネットワークをお客様のネットワーク環境に合わせてください。

・「Customization 設定」の「Enable echo mode」（P.36）にチェックが付いていない場合は、「CG-IPKVMR devices」欄にリストアップされません。この場合は「CG-IPKVMR」欄と「Port」欄に本商品のIPアドレス（IPアドレスのみ）とポート番号を入力することで直接ログイン画面を表示することができます。本商品のIPアドレスとポート番号は、「PART3…本商品の詳細設定」の「Network 設定」（P.26）で変更することができます。
・［Refresh］をクリックすることで、再検索することができます。
・「Network 設定」の「Access Port」の「Program」（P.26）を初期値（9000）から変更した場合は、「CG-IPKVMR devices」欄にリストアップされません。この場合は、設定したポート番号を「Port」欄に入力して、［Refresh］をクリックすることで再検索することができます。

4　ログイン画面でAdministratorのユーザ名とパスワードを入力して［Login］をクリックすると、「Admin Tool ソフトウェア」が起動します。

ユーザ名とパスワードを初期設定から変更していない場合、ユーザ名とパスワードの変更を促すメッセージが表示されます。セキュリティの観点からも管理者がユーザ名とパスワードを変更してください。ユーザ名、パスワードの変更方法については、「PART3…本商品の詳細設定」の「User Manager 設定」（P.32）をご覧ください。

ユーザ名とパスワードの初期設定は以下のとおりです。

ユーザ名	administrator（半角小文字）
パスワード	password（半角小文字）

●Admin Toolソフトウェアの設定方法

「PART3…本商品の詳細設定」の「アドミニストレータ設定」（P.24）に相当する設定ができます。

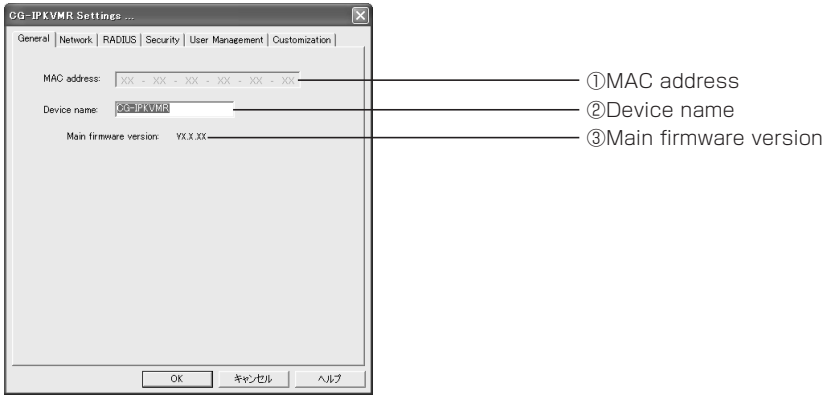
■General設定

本商品に関する基本情報が表示されます。

●「General設定」の表示

「Admin Toolソフトウェア」にログインすると最初に「General設定」が表示されます。また、[General] タブをクリックして表示できます。

●画面の説明

「General 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①MAC address	本商品のMACアドレスを表示します。
②Device name	本商品を複数台導入している場合、システムの管理を簡単にするためにユニットごとに名前を付けることができます。(半角英数のみ、最大15文字)。
③Main firmware version	現在のファームウェアバージョンを表示します。

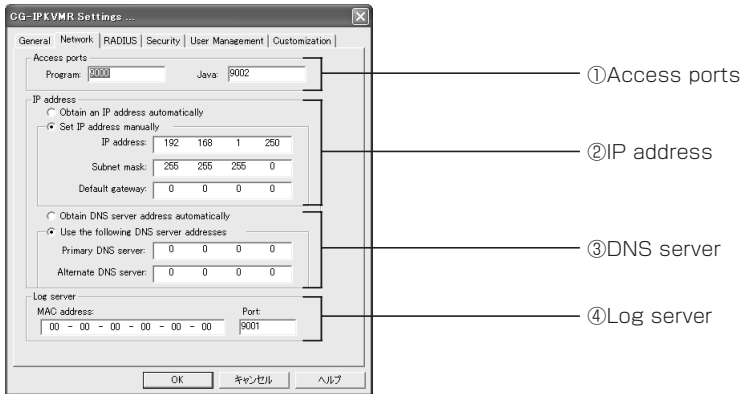
■Network設定

「Network 設定」は本商品のネットワーク環境を設定できます。

●「Network設定」の表示

「Network」タブをクリックして「Network 設定」を表示します。

●画面の説明

「Network 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①Access ports	ネットワークにファイアウォールが導入されている場合、ファイアウォールの設定で許可されたポート番号を指定します。ネットワークにファイアウォールが導入されていない環境の場合、この項目を変更する必要はありません。
Program	「Admin Toolソフトウェア」、「Windows Clientソフトウェア」が使用するポート番号です。有効なエントリは1,024～60,000です。
Java	「Java Clientソフトウェア」が使用するポート番号です。有効なエントリは0～65,535です。
②IP address	本商品は起動時にIPアドレス「192.168.1.250」が設定されていますが、DHCPサーバから自動的にIPアドレスを取得することもできます。IPアドレスをDHCPサーバから自動的に取得する場合は、「Obtain an IP address automatically」にチェックを付けます。固定IPアドレスを使用する場合は、「Set IP address manually」にチェックを付けて、使用するIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。

名称	内容
③DNS server	DNSサーバのIPアドレスをDHCPサーバから自動的に取得するには、「Obtain DNS server address automatically」にチェックを付けます。DNSサーバを手動で設定する場合は、「Use the following DNS server addresses」にチェックを付けて、使用するDNSサーバを入力します。
④Log server	ログイン情報や内部での動作内容など、本商品の重要なイベントは自動的にログに記録されます。本商品に記録されるログをログファイルとして外部に記録するには、記録先ログサーバとして使用するパソコンのMACアドレスとポート番号を登録する必要があります。設定については「PART5…ログ」(P.78)をご覧ください。

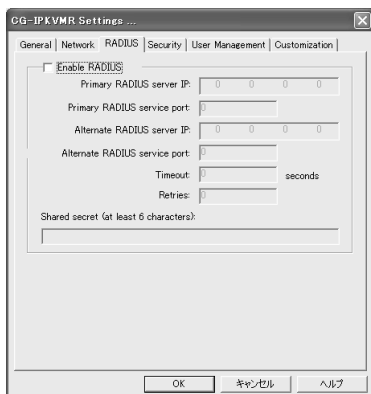
■RADIUS設定

「RADIUS 設定」は本商品のネットワーク環境を設定できます。

●「RADIUS設定」の表示

「RADIUS」タブをクリックして表示します。

●画面の説明

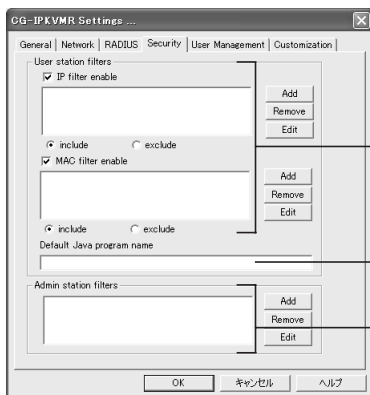
「RADIUS 設定」は以下の画面で構成されます。

RADIUSサーバを使用する場合は、「Enable RADIUS」にチェックを付け、RADIUSサーバの設定にしたがって入力してください。

■Security設定

「Security 設定」では、ローカル側パソコンにアクセスするパソコンをIPアドレス・MACアドレスでフィルタすることができます。

IPフィルタとMACフィルタを同時に満たすパソコンがのみがローカル側パソコンにアクセスできます。

●「Security設定」の表示

「Security」タブをクリックして「Security 設定」を表示します。

●画面の説明

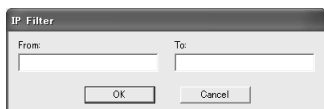
「Security 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①User station filters	特定のIPアドレスおよびMACアドレスからローカル側パソコンへのアクセスを許可または禁止します。IPアドレスまたはMACアドレスを、それぞれ最大100件分「include」(アクセスを許可する)、「exclude」(アクセスを禁止する)設定ができます。フィルタ方法はそれぞれ次ページをご覧ください。
IP filter enable	IPアドレスフィルタを有効にするには、本項目にチェックを付けます。IPアドレスは単独でも範囲指定でもフィルタできます。
include	「include」にチェックを付けた場合は、指定または範囲指定したIPアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて禁止します。
exclude	「exclude」にチェックを付けた場合は、指定または範囲指定したIPアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを禁止します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可します。
MAC filter enable	MACアドレスでのフィルタを有効にするには、本項目にチェックを付けます。
include	「include」にチェックを付けた場合は、指定のMACアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて禁止します。
exclude	「exclude」にチェックを付けた場合は、指定のMACアドレスからのローカル側パソコンへのアクセスを禁止します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可します。
②Default Java program name	「Java Clientソフトウェア」を使用する場合に設定します。本項目を設定すると、本商品の設定画面にアクセスするアドレスは、IPアドレスと「Default Java program name」を組み合わせて入力する必要があります。 例：本項目に「CG-IPKVMR」と設定した場合、設定画面へアクセスするためのアドレスは以下のとおりになります。 http://192.168.1.250/CG-IPKVMR
③Admin station filters	「Admin Toolソフトウェア」で本商品の設定を変更できるパソコンをMACアドレスで制限できます。何も指定しない場合は、すべてのパソコンで「Admin Toolソフトウェア」を使用して本商品の設定を変更できます。 ※「Admin station filters」は「AdminToolソフトウェア」に対してのみ機能します。

アクセスの許可および禁止は、すべてのIPアドレスまたはMACアドレスに対して同じ設定が適用されます。

●IPアドレスフィルタの追加

1　「IP filter enable」にチェックを付け、フィルタのinclude（許可する）、exclude（禁止する）を選択します。

2　［Add］をクリックすると、以下の画面が表示されます。フィルタに追加するIPアドレスを入力して［OK］をクリックします。フィルタに追加するIPアドレスがひとつの場合はFromとToに同じIPアドレスを入力して［OK］をクリックします。範囲指定する場合にはFromに始まりのIPアドレスを、Toに終わりのIPアドレスを入力して［OK］をクリックします。

以上でIPアドレスフィルタの追加の完了です。

●IPアドレスフィルタの編集

1　編集したい設定を選択し、［Edit］をクリックします。

2　追加時と同様のダイアログボックスが表示されますので、編集して［OK］をクリックします。

以上でIPアドレスフィルタの編集の完了です。

●IPアドレスフィルタの削除

1　削除したい設定を選択し、［Remove］をクリックします。

以上でIPアドレスフィルタの削除の完了です。

●MACアドレスフィルタの追加

1　「MAC filter enable」にチェックを付け、フィルタのinclude（含める）、exclude（除外する）を選択します。

2　［Add］をクリックすると以下の画面が表示されます。フィルタに追加するMACアドレスを入力して［OK］をクリックします。

以上でMACアドレスフィルタの追加の完了です。

●MACアドレスフィルタの編集

1　編集したい項目を選択して［Edit］をクリックします。

2　追加時と同様のダイアログボックスが表示されますので、古いアドレスを消してから新しいアドレスを入力します。

以上で MAC アドレスフィルタの編集の完了です。

●MACアドレスフィルタの削除

1　削除したい項目を選択して［Remove］をクリックします。

以上で MAC アドレスフィルタの削除の完了です。

■User Management設定

「User Management 設定」ではユーザアカウントの登録・編集・削除など、各ユーザアカウントの設定・管理ができます。

●「User Management設定」の表示

「User Management」タブをクリックして「User Management 設定」を表示します。

●画面の説明

「User Management 設定」は以下の画面で構成されます。

●ユーザアカウントの追加

1　ユーザアカウントを追加する場合は、［Add］をクリックします。

2　以下の画面が表示されます。以下の表の各項目を設定後、［OK］をクリックするとUser list にユーザアカウントが追加されます。

名称	内容
①Username	英数最小6文字、最大15文字で作成します。
②Password	英数最小8文字、最大15文字で作成します。
③Confirm password	確認のため、パスワードを再入力します。入力が一致する必要があります。
④Description	必要があればユーザについての追加情報を入力します。
⑤Permissions	各ユーザアカウントごとに各操作アイコンの操作の可／不可を設定できます。
Configure	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントはアドミニストレータ設定で本商品の設定ができます。
Windows client	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Windows Clientソフトウェア」を使用してローカル側パソコンを操作できます。
Java client	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Java Clientソフトウェア」を使用してローカル側パソコンを操作できます。
Log	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Logアイコン」から本商品のログを見ることができます。「Logアイコン」の説明については、「PART5…ログ」(P.78)をご覧ください。
View only	本項目にチェックを付けると、このユーザアカウントは「Windows Clientソフトウェア」などを使用してローカル側パソコンの画面を見ることができます。 ※ローカル側パソコンを操作することはできません。
⑥OK	設定を保存します。
⑦Cancel	設定をキャンセルします。

以上でユーザアカウントの追加は完了です。

ユーザアカウントは最大 63 アカウントまで追加できます。

●**ユーザアカウントの編集**

1　編集したいユーザアカウントを User list で選択し、［Edit］をクリックします。

2　User Management ウィンドウの各項目を修正して［OK］をクリックします。

以上でユーザアカウントの編集は完了です。

●**ユーザアカウントの削除**

1　削除したいユーザアカウントをUser listで選択し、[Remove] をクリックします。

以上でユーザアカウントの削除は完了です。

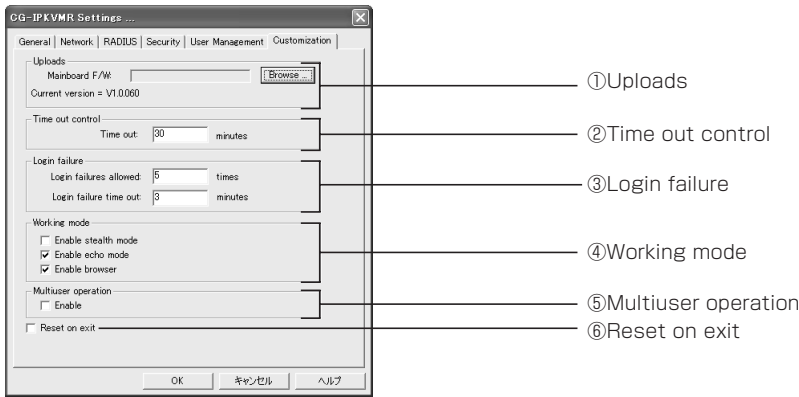
■Customization設定

「Customization 設定」ではタイムアウト・ログイン失敗・動作モード・リセットに関する設定ができます。

●「Customization設定」の表示

「Customization」タブをクリックして「Customization 設定」を表示します。

●画面の説明

「Customization 設定」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①Uploads	[Browse]からファームウェアファイルを指定することで、本商品のファームウェアを更新することができます。
②Time out control	ローカル側パソコンからタイムアウトする時間を分単位で設定できます。「Windows Clientソフトウェア」などで一定時間アクセスがなかった場合にローカル側パソコンとの接続を切断します。
③Login failure	本商品へのログイン失敗時の設定ができます。
Login failures allowed	本商品にログインしようとするリモート側パソコンのログイン失敗回数を設定できます。
Login failure time out	上記で設定した回数のログインに連続して失敗したリモート側パソコンは、ここで指定された時間が経過するまでは再度ログインすることができません。

名称	内容
④Working mode	本商品の動作に関する設定ができます。
Enable stealth mode	本項目にチェックを付けた場合、本商品はpingに応答しません。
Enable echo mode	本項目にチェックを付けない場合、エコーが無効になりローカルネットワーク内で本商品が表示されません。「Windows Clientソフトウェア」や「Admin Toolソフトウェア」のリスト上に表示されません。詳細は「Windows Clientソフトウェア」(P.38)および「Admin Toolソフトウェア」(P.57)をご覧ください。
Enable browser	本項目にチェックを付けない場合、Webブラウザから本商品にログインすることができません。
⑤Multiuser operation	「Enable」にチェックを付けた場合、複数のリモート側パソコンが同時にローカル側パソコンにログインすることができます。「Enable」にチェックを付けない場合、複数のリモート側パソコンから同時にローカル側パソコンにログインすることはできません。
⑥Reset on exit	「Reset on exit」にチェックを付けた場合、ログアウト時に本商品を再起動して設定変更を反映します。再起動には30〜60秒程度かかります。再度ログインするには時間を空けてください。

Windows Clientソフトウェア

本項目では、「Windows Client ソフトウェア」のインストール・起動・設定の説明をします。「Remote View 画面」を表示したあとの操作方法は、「Windows Client ソフトウェア」の「Remote View 画面」（P.40）をご覧ください。

●「Windows Clientソフトウェア」のインストール方法

「Windows Client ソフトウェア」をリモート側パソコンで直接使用するには、インストールする必要があります。

1　ユーティリティディスク内の「windows」フォルダにある「CG-IPKVMRClient.exe」をダブルクリックします。

2　インストール画面にしたがってインストールします。

以上で「Windows Client ソフトウェア」のインストールが完了します。

●「Windows Clientソフトウェア」の起動方法

ローカル側パソコンに切り替えるには、「Windows Client ソフトウェア」を起動する必要があります。

1　「スタート」-「すべてのプログラム」-「CG-IPKVMR」-「CG-IPKVMR Windows Client」をクリックします。

2　初回起動時のみ以下の画面が表示されます。下記シリアル番号を入力して［OK］をクリックします。

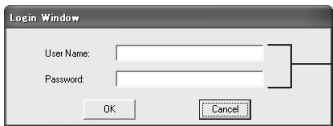
シリアル番号	XT7B5-Z1S0C-U0850-CA4E1

「0」はすべて数字のゼロです。

3　「Windows Clientソフトウェア」が起動すると以下の画面が表示されます。本商品にログインするには、「Server List」に表示された本商品をダブルクリックします。

・「Server List」にログインしたい本商品が表示されない場合は、「Customization設定」の「Enable echo mode」（P.36）が有効になっていないか、「Network設定」の「Access Port」の「Program」（P.26）が初期設定（9000）から変更されている場合があります。「Enable echo mode」が有効になっていない場合はチェックを付けてください。「Access Port」の「Program」を変更した場合は、「Server」欄の「Port」に変更したポート番号を入力して、「Server List」の欄内をクリックして画面を更新してください。

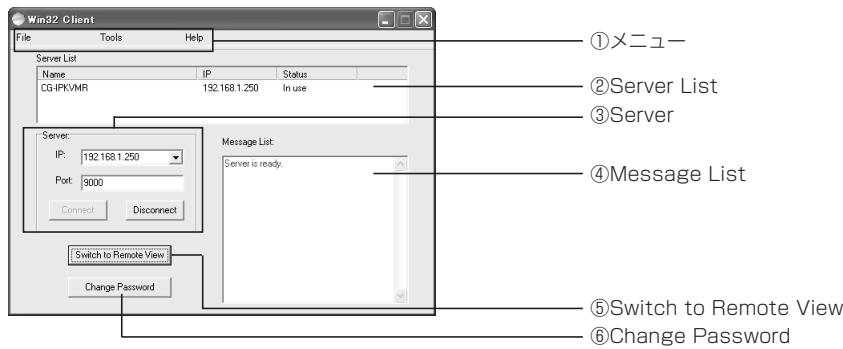
・「Server List」に本商品を表示させずにログインするには、ログインしたい本商品のIPアドレスとポート番号を「Server」欄に直接入力して［Connect］をクリックしてください。

4　ログイン画面で、Administratorのユーザ名とパスワードを入力して［OK］をクリックすると、「Windows Clientソフトウェア」が起動します。

ユーザ名とパスワードの初期設定は下記のとおりです。

ユーザ名	administrator（半角小文字）
パスワード	password（半角小文字）

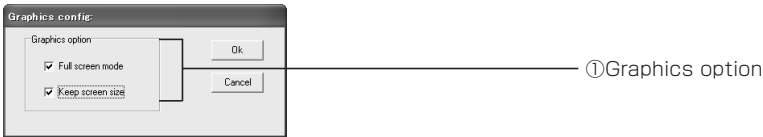
本商品へ接続すると「Windows Client画面」が表示されます。

■Windows Client画面

「Windows Client 画面」では、パスワードの変更と、「Remote View 画面」を起動してローカル側パソコンへの切り替えを行うことができます。

名称	内容
①メニュー	各設定ができます。
File	「Hotkey Setup画面」、「Graphics config画面」で設定した状態を保存できます。
New	新しい設定ファイルを作成します。
Open	設定ファイルを開きます。
Save	現在の状態を設定ファイルに保存します。
Tools	ウィンドウ設定とホットキー設定ができます。
Keyboard	「Hotkey Setup画面」でホットキーの設定ができます。詳細は「Hotkey Setup画面」(P.43)をご覧ください。
Config	「Graphics config画面」で「Full Screen Mode」と「Keep Screen Size」の設定ができます。詳細は「Windows Client画面」(P.39)をご覧ください。
Help	ヘルプとバージョンを表示します。
②Server List	ネットワーク内にある本商品の名前・IPアドレス・ステータスがリストで表示されます。
③Server	IPアドレスとポート番号でログインしたい本商品を直接指定することができます。
Connect	Serverで表示しているIPアドレスの本商品に接続します。
Disconnect	現在接続している本商品から切断します。
④Message List	ソフトウェア上で行った操作が表示されます。
⑤Switch to Remote View	ローカル側パソコンに切り替えます。
⑥Change Password	パスワードを変更できます。

●「Remote View画面」の設定

「Remote View 画面」の設定を行うことができます。

［Tools］－［Config］をクリックすると、「Remote View 画面」の表示方法の設定を行うことができます。

名称	内容
①Graphics option	ローカル側パソコンの画面出力を「Remote Virew画面」でリモート側パソコンに出力するときの表示方法を設定します。
Full screen mode	「Full screen mode」にチェックが付いている場合はフルスクリーン表示に、チェックが付いていない場合はウィンドウ表示になります。
Keep screen size	「Keep screen size」にチェックが付いていない場合は、ローカル側パソコンの画面解像度を変更することで、「Remote View画面」の画面サイズも変更されます。

●「Hotkey Setup画面」の設定

ホットキーの設定を行うことができます。

［Tools］－［Keyboard］をクリックすると、「Hotkey Setup 画面」の表示方法の設定を行うことができます。詳細は「Hotkey Setup 画面」（P.43）をご覧ください。

●パスワードの変更

パスワードを変更することができます。

1　［Change Password］をクリックします。

2　パスワードの変更画面が表示されますので、変更して［OK］をクリックします。

以上でパスワードの変更は完了です。

●ローカル側パソコンへの切り替え
「Remote View画面」を表示してローカル側パソコンを操作できます。

1 ［Switch to Remote View］をクリックします。

2 「Remote View画面」が表示されます。

以上で「Remote View画面」内で、ローカル側パソコンの操作ができます。

●設定ファイルの作成と保存
「Hotkey Setup画面」、「Graphics config画面」で設定した状態を設定ファイルに保存することができます。

1 ［File］－［New］をクリックすると、新しいファイルを作成する画面が開きます。

2 ファイル名に任意のファイル名を入力して［開く］をクリックすると、新しい設定ファイルが作成されます。

3 「Windows Client画面」や「Remote View画面」で「Hotkey Setup画面」、「Graphics config画面」の設定を行います。

4 「Windows Client画面」に戻り、［File］－［Save］をクリックすると、設定した状態がファイルに保存されます。

以上で設定ファイルの作成と保存の完了です。

●設定ファイルの読み込み
保存した設定を読み込むことができます。

1 ［File］－［Open］をクリックすると、ファイルを開く画面が開きます。

2 ファイルを選択して［開く］をクリックすると、ファイルに保存された設定が反映した状態になります。

以上で設定ファイルの読み込みは完了です。

改めて設定ファイルを読み込む場合は、一度［Disconnect］で本商品との接続を切断する必要があります。

Java Clientソフトウェア

本項目では、ユーティリティディスクを使用した「Java Clientソフトウェア」の起動の説明をします。

以下の手順で「Java Clientソフトウェア」を起動します。

本項目では、以下の設定が完了している状態で説明します。

Default Java program name	CG-IPKVMR
本商品のIPアドレス	192.168.1.250
Access PortのJavaポート	1234

1 ユーティリティディスク内の「java」フォルダにある「CG-IPKVMRmain.jar」をパソコンのデスクトップ等にコピーします。

2 コピーした「CG-IPKVMRmain.jar」をダブルクリックします。

「Java Client ソフトウェア」が起動しない場合は、拡張子「.jar」ファイルが「Java（TM）2 Platform Standard Edition binary」と関連付けられているか確認してください。

3 初回起動時に以下の画面が表示されます。下記シリアル番号を入力して［OK］をクリックします。

シリアル番号を入力します。

シリアル番号	XT7B5-Z1S0C-U0850-CA4E1

「0」はすべて数字のゼロです。

4 「Address Input」画面が表示されますので本商品のアドレスを入力して［OK］をクリックします。

アドレスを入力します。

例）192.168.1.250:1234/CG-IPKVMR

ポート番号を初期設定（9002）から変更していない場合は、ポート番号を省略できます。

5　本商品へのログイン画面が表示されますので、ユーザ名とパスワードを入力して［OK］をクリックします。

ユーザ名とパスワードの初期設定は下記のとおりです。

ユーザ名	administrator（半角小文字）
パスワード	password（半角小文字）

ログインが完了すると、「Java Client ソフトウェア」が表示され、ローカル側パソコンを操作できるようになります。

使用方法は「PART3…本商品の詳細設定」の「Java Clientソフトウェア」（P.48）をご覧ください。

4

Log Serverソフトウェア

「Log Server ソフトウェア」は、本商品に記録されているログをパソコンに記録し、解析することができます。使用方法や詳細は「PART5…ログ」（次ページ）をご覧ください。

PART 5 ログ

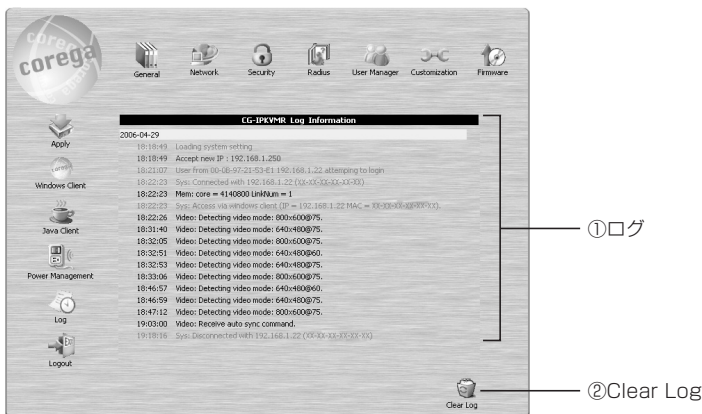
本商品で起こるイベントはログに記録されます。ログは本商品に記録され、設定画面で表示することや、「Log Server ソフトウェア」を使用することで Windows パソコンに記録することができます。

Log画面

本商品の設定画面の「Log 画面」で本商品に記録されたログを見ることができます。

●ログの表示

1　本商品のログを表示するには、設定画面にログインした状態で、画面左側下部の「Log アイコン」をクリックします。

2　「Log 画面」が以下の図のように表示されます。

名称	内容
①ログ	本商品が記録しているログです。
②Clear Log	ログを削除します。

●ログの削除

「Log 画面」に表示されたログを削除することができます。

1　画面右側下部に表示されている［Clear Log］をクリックします。

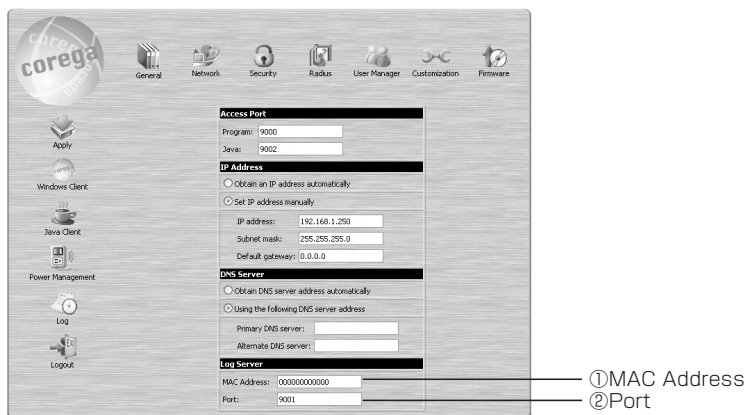
以上で本商品に記録されたログが削除されます。

Log Serverソフトウェア

「Log Server ソフトウェア」は、パソコンに本商品のログを記録し、分析することができるソフトウェアです。Log Serverとして使用するパソコンを本商品に登録した上で本ソフトウェアをパソコンにインストールします。

●本商品への「Log Serverソフトウェア」の登録

「Log Serverソフトウェア」をインストールするパソコンのMACアドレスを本商品に登録します。

1　本商品のアドミニストレータ設定の「Network」をクリックします。

2　「MAC Address」に、「Log Server ソフトウェア」をインストールするパソコンの MAC アドレスを登録します。

3　「Port」に、通信に使用するポート番号を設定します。

ネットワークにファイアウォールが導入されている場合、ファイアウォールの設定で許可されたポート番号を指定することができます。ネットワークにファイアウォールが導入されていない場合、通常は初期状態のままポート番号を変更する必要はありません。

以上で本商品への登録は完了です。

●「Log Serverソフトウェア」のインストール方法

ログを記録するパソコンに「Log Server ソフトウェア」をインストールします。

1　ユーティリティディスク内の「log」フォルダにある「CG-IPKVMRlogServer.exe」をダブルクリックします。

2　画面にしたがってインストールを進め、[完了] をクリックします。

以上で「Log Server ソフトウェア」のインストールは完了です。

●「Log Serverソフトウェア」の起動

本商品へのパソコンの登録と、「Log Server ソフトウェア」のインストールが完了したら、「Log Server ソフトウェア」を起動します。

1　「スタート」－「すべてのプログラム」－「CG-IPKVMR」－「CG-IPKVMRLOGSERVER」をクリックします。

2　「Log Server ソフトウェア」が起動します。

■Log Server画面

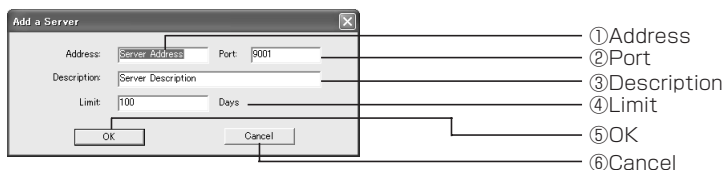
「Log Server 画面」は以下の画面で構成されます。

名称	内容
①Configure	「Log Serverソフトウェア」でログを記録したい本商品の追加、編集、削除ができます。
Add	ログを記録したい本商品を追加します。
Edit	選択した設定を編集します。
Delete	選択した設定を削除します。
②Events	記録したログの検索や削除ができます。
Search	指定した条件でログの検索を行います。
Maintenance	設定した日数以前のログを削除します。期間設定の詳細は「Log Serverソフトウェアへの登録」の「④Limit」(P.82)をご覧ください。
③Options	オプションを設定できます。
Network retry	「Log Serverソフトウェア」が接続に失敗した場合に、再接続するまでの時間を設定できます。
④Help	ヘルプ(英語)を表示します。
⑤登録一覧	「Log Serverソフトウェア」に登録した本商品の一覧と状態を表示します。
⑥ログ一覧	ログの一覧を表示します。

●「Log Serverソフトウェア」への登録

ログを記録するには、「Log Server ソフトウェア」 にログを記録したい本商品のIP アドレス・ポート番号を登録する必要があります。以下の手順で 「Log Server ソフトウェア」 に本商品を登録してください。

1　「Configure」 ― 「Add」 をクリックします。

2　以下の画面が表示されます。ログを記録したい本商品を登録します。

名称	内容
①Address	ログを記録したい本商品のIPアドレスを入力します。
②Port	使用するポート番号を入力します(「Log Server」の「Port」(P.79)設定で入力したポート番号と同じ番号を入力)。
③Description	備考欄です。
④Limit	記録できるログの日数の上限を指定します。メニューバーの「Maintenance」をクリックすることで上限以前のログが削除されます。削除方法は、「ログの削除」(P.84)をご覧ください。
⑤OK	設定を保存します。
⑥Cancel	設定をキャンセルします。

3　[OK]をクリックして画面を閉じます。登録一覧に表示されたら完了です。

●「Log Serverソフトウェア」への登録の編集

登録した本商品の内容を編集することができます。

1　「登録一覧」で、編集したい本商品を選択し、[Configure] ー [Edit] をクリックします。

2　設定を編集します。

以上で編集の完了です。

●「Log Serverソフトウェア」の登録の削除

登録した本商品の内容を削除することができます。

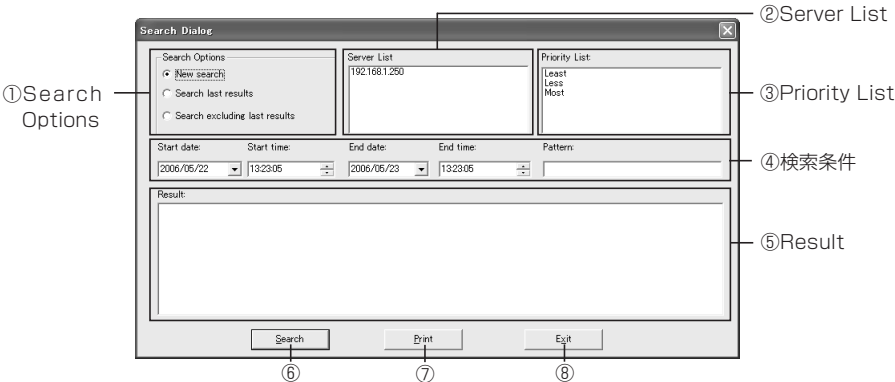
1　「登録一覧」で、削除したい本商品を選択し、[Configure] ー [Delete] をクリックします。

以上で削除の完了です。

●ログの検索

「Log Server ソフトウェア」に記録されたログは、画面上で表示するだけでなく、各条件にしたがって検索することができます。

1　「Events」－「Search」をクリックします。

2　以下の画面が表示されます。以下の一覧表を参考に検索してください。

名称		内容
①Search Options		検索方法を指定します。
	New search	「Server List」で選択したサーバ(本商品)に対して、設定した条件のイベントを新規に検索します。
	Search last results	検索結果から絞り込み検索します。
	Search excluding last results	検索結果を除いたすべてのログから検索します。
②Server List		ログを検索したいサーバ(本商品)を指定することができます。サーバを指定しない場合、「Server List」に表示されたすべてのサーバを検索します。
③Priority List		検索するログの重要度を指定することができます。
	Least	画面表示や画面設定に関するログです。ログ上では黒字で表示されます。
	Less	IPアドレスに関するログです。ログ上では青字で表示されます。
	Most	システム設定やユーザのログインに関するログです。ログ上では赤字で表示されます。

5

名称	内容
④検索条件	ここで入力した時間範囲・文字列の条件でログを検索します。
Start date・Start time	時間範囲の開始時間を指定します。
End date・End time	時間範囲の終了時間を指定します。
Pattern	入力した文字列を検索します。ワイルドカード(%)を使用できます。
⑤Result	検索した結果が表示されます。
⑥Search	①～④の条件で検索を実行します。
⑦Print	検索結果を印刷します。
⑧Exit	画面を閉じます。

●ログの削除

「Log Server ソフトウェア」に記録されたログを削除します。

1 「Events」－「Maintenance」をクリックします。

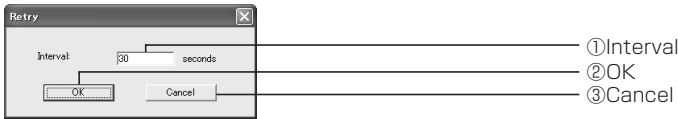
2 「Log Server ソフトウェア」への登録のときに設定した「Limit」の上限より古いログを削除します。

以上でログの削除は完了です。

●オプションの設定

「Log Server ソフトウェア」が接続に失敗した場合の再接続するまでの時間を設定できます。

1 「Options」－「Network retry」をクリックします。

2 以下の画面が表示されます。再接続までの時間を設定して [OK] をクリックします。

名称	内容
①Interval	「Log Serverソフトウェア」が接続に失敗した場合の再接続するまでの時間を設定できます。
②OK	設定を保存します。
③Cancel	設定をキャンセルします。

以上で、オプションの設定の完了です。

PART 6

Q&A

本商品を使っていて「困ったな」、「うまく動かない…」と思ったときや疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

①取扱説明書（本書）で設定を再確認する／管理者に確認する

（それでも解決できない場合は…）

②このPARTのQ&Aを確認する

〈トラブルは？〉

一般的な操作

・動作が不安定になる

・マウスポインタの表示で混乱する

・リモート側とローカル側のマウスポインタが同期していない

Windows Client ソフトウェア

・「Windows Client ソフトウェア」が起動しない

・ リモート側とローカル側のマウスポインタが同期していない

・ ローカル側ディスプレイの出力が90度回転して表示される

Java Client ソフトウェア

・「Java Client ソフトウェア」が本商品に接続できない

・「Java Client ソフトウェア」のパフォーマンスが悪い

Log Server ソフトウェア

・「Log Server ソフトウェア」が実行できない

ログイン名・パスワード・IPアドレスなどの設定を忘れてしまった

（それでも解決できない場合は…）

③コレガのホームページの情報を活用する

（それでも解決できない場合は…）

④それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

連絡先は取扱説明書（本書）の「商品に関するご質問は…」（裏表紙）をご覧ください。

一般的な操作

症状	解決方法
動作が不安定になる	本商品を再起動してください。(「本商品を再起動する(P.89)」)
	本商品に切替器が接続されている場合は、対応の切替器かご確認ください。対応機種は、「切替器との接続」(P.22)をご覧ください。また、本商品の電源をオンにする前に、切替器の電源をオンにしてください。
マウスポインタの表示で混乱する	ローカルとリモートの2つのマウスポインタが表示されて操作の上で分かりにくい場合は、「Toggle mouse display」を使用してリモートのマウスポインタを変更することができます。詳細については「Toggle mouse display」(P.43)をご覧ください。
リモート側とローカル側のマウスポインタが同期していない	解像度の変更を行った場合など、リモート側パソコンのマウス操作とローカル側パソコンのマウスポインタの挙動が一致しなくなる場合があります。このような場合は下記のいずれかの方法をお試しください。 1. リモート側のマウスポインタを「Remote View画面」外に出し、再度「Remote View画面」内に戻す。 2. 「Video Options画面」の「Auto-Sync」(P.45)を実行する。 3. 「Adjust mouse」(P.43)を実行して、リモート側マウスポインタをローカル側マウスポインタの上に正確に重ね合わせてクリックする。 4. ローカル側パソコンのマウスの設定を変更する。 「コントロールパネル」の「マウスのプロパティ」を開いたら、以下の設定を変更します。 ●Window 98SEの場合 「動作」タブの「ポインタの速度」を「中間」にします。 「動作」タブの「ポインタの軌跡」のチェックを外します。 ●Windows Meの場合 「ポインタオプション」タブのすべてのチェックを外します。 ●Windows 2000の場合 「動作」タブの「速度」を「中間」にします。 「動作」タブの「加速」を「なし」にします。 「動作」タブの「規定のボタンに移動」のチェックを外します。 ●Windows XPの場合 「ポインタオプション」タブの「速度」を「中間」にします。 「ポインタオプション」タブのすべてのチェックを外します。 「マウスのプロパティ」の設定を変更したあと、デスクトップの四隅をなぞるように動かすと、マウスポインタが同期されます。

Windows Clientソフトウェア

症状	解決方法
「Windows Clientソフトウェア」が起動しない	ご使用のパソコンにDirectX 7.0以上がインストールされている必要があります。マイクロソフト株式会社のホームページより最新版のDirectXをダウンロードしてインストールしてください。
リモート側ディスプレイでローカル側ディスプレイの一部分しか表示されない	「Remote View画面」を最大化表示し、画面の端までマウスポインタを動かすことで、ローカル側ディスプレイ画面をスクロールさせることができます。
ローカル側ディスプレイの出力が90度回転して表示される	「Keep Screen Size」を有効にしてください。詳細は「Keep Screen Size」(P.39)をご覧ください。

Java Clientソフトウェア

マウス同期に関しては「Auto-Sync」(P.52) をご覧ください。接続と操作については下表をご覧ください。

症状	解決方法
「Java Clientソフトウェア」が本商品に接続できない	お使いのパソコンにJava 2 JRE1.4以上がインストールされている必要があります。サン・マイクロシステムズ株式会社のホームページより最新版のJavaをダウンロードしてインストールしてください。
	本商品の設定画面のIPアドレスがWebブラウザのアドレスバーに正しく入力されているか確認してください。「Java Clientソフトウェア」で本商品に接続する場合は、「Default Java program name」を設定する必要があります。詳細は「Default Java program name」(P.28)をご覧ください。
	「Java Clientソフトウェア」を一度終了させて、もう一度実行してみてください。
「Java Clientソフトウェア」のパフォーマンスが悪い	「Java Clientソフトウェア」を一度終了させて、もう一度実行してみてください。

Log Serverソフトウェア

症状	解決方法
「Log Serverソフトウェア」が実行できない	「Log Serverソフトウェア」は、データベースにアクセスするためにMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバがインストールされている必要があります。

ログイン名・パスワード・IPアドレスなどの設定を忘れてしまった

セキュリティの観点から、本商品を初期化することはできません。ユーザ権限のログイン名・パスワードを忘れた場合は、管理者権限を持つ管理者にお問い合わせください。アドミニストレータ権限のログイン名・パスワードを忘れた場合は、サービスにてお取り扱いいたしますので、「保証と修理について」（P.102）をご覧いただき、ご購入された販売店へお持ちください。

付録

付録では、本商品の再起動や電源のオフのしかたなどの取り扱い方法や、本商品を設定するための設定用パソコンの設定方法、ラックマウントセットの接続方法などの情報をご案内します。

本商品の取り扱い

本商品を再起動したり、電源をオフにする場合は以下の手順で行ってください。

■本商品を再起動する

本商品を再起動する場合は以下のいずれかの手順で行ってください。

●電源の入れ直しでの再起動

1　本商品に接続しているパソコンの電源をオフにします。

使用しているキーボードに電源オン／オフボタンなどの起動機能が付いている場合は、パソコンの電源ケーブルも抜いてください。

2　本商品の AC アダプタを電源コンセントから抜きます。

3　10秒以上時間を空けてから本商品のACアダプタを電源コンセントに差し込みます。

4　本商品の起動後、パソコンの電源をオンにします。

以上で再起動は完了です。

●Resetボタンでの再起動

1　本商品の前面の Reset ボタンを 3 秒以上押して離します。

2　10/100M LED が一度消灯し、再度点灯します。

以上で再起動は完了です。

■本商品の電源をオフにする

本商品を電源オフにする場合は、以下の手順で行ってください。

1　本商品に接続しているパソコンの電源をオフにします。

使用しているキーボードに電源オン／オフボタンなどの起動機能が付いている場合は、パソコンの電源ケーブルも抜いてください。

2　本商品の AC アダプタを電源コンセントから抜きます。

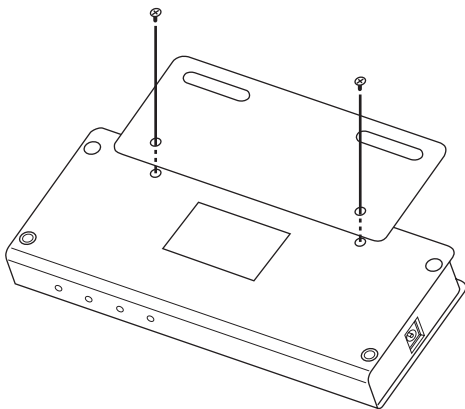
3　AC アダプタを本商品の DC ジャックから抜きます。

以上で本商品の電源がオフになりました。

ラックマウントセットの使用方法

本商品はラックシステムの側面にマウントすることができます。

1　ユニットの上面もしくは底面のネジを 2 本外します。

2　以下の図のように、外したネジでラックマウント金具をネジ止めします。

3　システムラックの任意の場所へラックマウント用ネジ2本でネジ止めしてください。

以上でラックマウントへの設置は完了です。

設定用パソコンの設定

本商品を設定するためのパソコンは以下の手順でご用意ください。

■設定前の準備

本商品の設定を行うには、以下の手順で設定用パソコンを一台準備してください。

設定用パソコンは、必要に応じてネットワークの設定を変更する場合があります。設定用パソコンを元のネットワークで再び使う場合は、設定を変更する前に、必ずTCP/IPの設定やLANアダプタなどのネットワーク設定の控えをとってください。

■設定用パソコンの構成

本商品の設定を行うためには、次の条件を満たすパソコンが必要です。

・100BASE-TXもしくは10BASE-T規格の有線LANポートが装備されていること。
・インストールされているOSはWindows XP/2000/Me/98SEのいずれかであること。
・TCP/IPが組み込まれていること。
・Microsoft Internet Explorer 5.5以降がインストールされていること。

LANアダプタの取り付け方法や設定方法についての詳細は、LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

■設定用パソコンのTCP/IPの設定を確認する

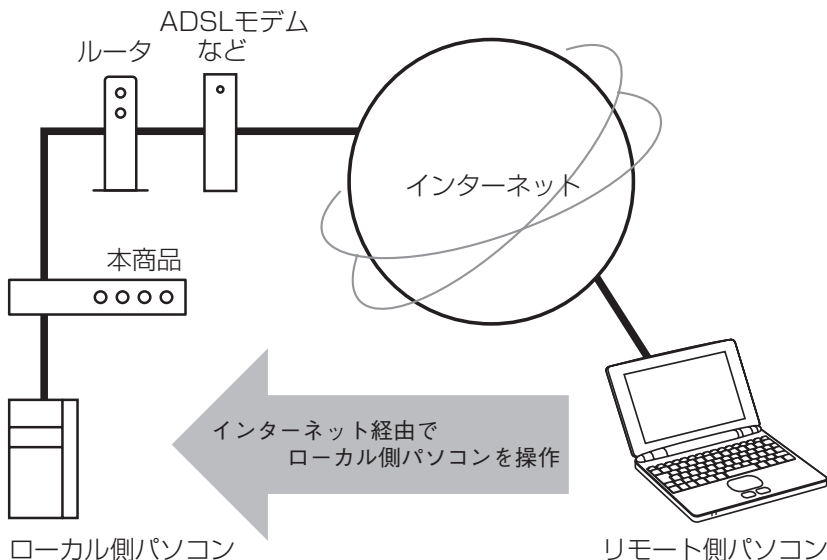
本商品の設定を行う場合は、設定用パソコンのTCP/IP設定が以下のように設定されている必要があります。

・IPアドレス：「192.168.1.250」を除いた、「192.168.1.1〜192.168.1.254」の範囲のIPアドレス
・サブネットマスク：「255.255.255.0」

以上を設定の上、設定用パソコンで本商品の設定を行ってください。

インターネット経由でローカル側パソコンを操作する

本商品は、TCP/IPネットワーク経由で離れた場所からローカル側パソコンを操作することができます。
本項目では、インターネット経由でローカル側パソコンを操作するために本商品と上位にあるネットワーク機器（ブロードバンドルータなど）に行う設定例を紹介します。インターネット経由でローカル側パソコンを操作する場合は本項目をご参考ください。ここでは、本商品の上位にコレガ製ブロードバンドルータを配置した場合を例に説明します。

ルータなどに本項目の設定を行うと、外部に本商品とローカル側パソコンを公開することになり、不正侵入にさらされるおそれがあります。本商品ではアクセス可能なユーザアカウントをユーザ名とパスワードで制限していますが、パスワードの解読や漏洩などのおそれがありますので、ユーザアカウントとパスワードは必ず初期設定から変更し、管理者が厳重に管理してください。お客様が本設定に関して損害を被った場合も、コレガは一切賠償の責任を負いません。

■使用機器と環境

以下の機器・環境を用意します。
・インターネット回線：光回線やADSL回線など
・コレガ製ブロードバンドルータ：本項目ではCG-BARSXを使用
・本商品：CG-IPKVMR
・ローカル側パソコン
・リモート側パソコン

■前提

まず、LAN内でローカル側パソコンを操作できるように設定します。詳しくは「PART2…本商品との接続」（P.15）以降をご覧ください。
ここでは、さらに以下の設定を完了している状態とします。本商品の設定方法は、「PART3…本商品の詳細設定」（P.23）以降をご覧ください。ルータのインターネット接続の設定方法については、ルータに同梱の取扱説明書をご覧ください。

●ルータの設定
WAN側IPアドレス：172.16.0.100
LAN側IPアドレス：192.168.1.1
サブネットマスク：255.255.255.0
ダイナミックDNSのドメイン名：test-corega.dyndns.info

●本商品の設定
Device Name：CG-IPKVMR（初期設定）
IPアドレス：192.168.1.250（初期設定）
サブネットマスク：255.255.255.0（初期設定）
デフォルトゲートウェイ：192.168.1.1
DNSサーバ：192.168.1.1
Default Java Name：ipkvmr
Access Port（Program）：9000（初期設定）
Access Port（Java）：9002（初期設定）

■ルータへの本商品の登録

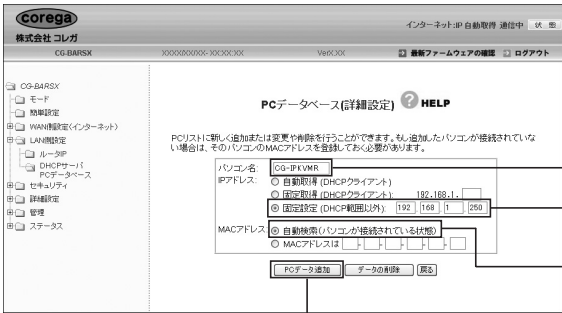
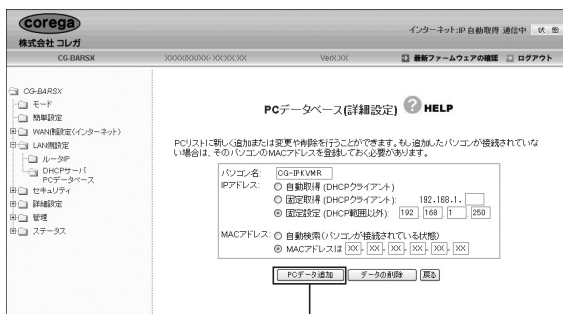
リモート側パソコンがインターネット経由でローカル側パソコンを操作するには、本商品に対して、ルータのポートを開放する必要があります。コレガ製ブロードバンドルータ（例：CG-BARSX）では、ポートを開放するために「バーチャルサーバ」の設定が必要になります。また、バーチャルサーバの設定を行うために、まずPCデータベースに本商品を登録する必要があります。

●PCデータベースの登録

1　Webブラウザを開き、アドレス欄に「192.168.1.1」と入力してルータの設定画面を開きます。

2　左側のメニューの「LAN側設定」－「DHCPサーバ・PCデータベース」を開きます。

3　「PCデータベース」の[追加]をクリックします。

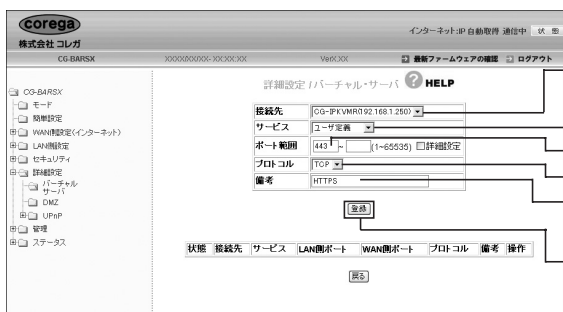
4　「PCデータベース」に本商品を登録します。

5　「MACアドレス」に本商品のMACアドレスが表示されたら再度[PCデータ追加]をクリックします。

クリックします。

6　「DHCPサーバ・PCデータベース」の画面に戻ります。「PCデータベース」に本商品のデータが設定されていることを確認します。

以上で本商品のPCデータベースへの登録は完了です。

●バーチャルサーバの設定

1　左側のメニューの「詳細設定」－「バーチャルサーバ」を開きます。

2　インターネット側から本商品の設定画面にアクセスするには、「443（HTTPS）」ポートをバーチャルサーバで設定します。

3　下段に今登録した情報が表示されたら設定完了です。

4　あわせて「Admin Toolソフトウェア」や「Windows Client ソフトウェア」でローカル側パソコンにアクセスするには、「9000」ポートをバーチャルサーバで設定します。「Java Client ソフトウェア」でローカル側パソコンにアクセスするには、「9002」ポートをバーチャルサーバで設定します。

以上でバーチャルサーバの設定は完了です。
実際にインターネット経由で本商品の設定画面を開いたり、ローカル側パソコンを操作する方法については、次の項目をご覧ください。

●インターネット経由で本商品を設定する（本商品の設定画面の場合）

インターネット経由で本商品の設定画面を開くには、ブロードバンドルータのWAN（インターネット）側のIPアドレスが必要になります。ここでは、ルータの設定でWAN側IPアドレスは172.16.0.100を取得している場合で説明します。

1 Webブラウザを起動し、「アドレス欄」に「https://172.16.0.100/ipkvmr」と入力して「移動」をクリックします。

2 以降は、「リモート側パソコンからの動作確認」（P.18）の手順２以降と同じ操作で本商品の設定画面を開くことができます。本商品の設定画面を開いたあとは、「アドミニストレータ設定」で本商品の設定を変更したり、左側のメニューの「Windows Client」アイコン」や「Java Clientアイコン」から「Java Client ソフトウェア」や「Java Client ソフトウェア」を起動することができます。

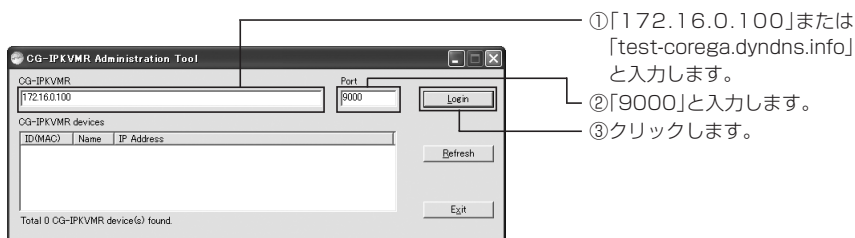
WAN側IPアドレスはインターネットの接続方法によってその都度変わる場合があります。そのような場合はダイナミックDNSを使用すると、常に同じアドレス（ドメイン名）でアクセスすることができます。ダイナミックDNSを使用している場合にインターネット経由で本商品の設定画面を開くには、Webブラウザの「アドレス欄」に取得しているダイナミックDNSのドメイン名を入力します。

例：https://test-corega.dyndns.info/ipkvmr

●インターネット経由で本商品を設定する（「Admin Tool ソフトウェア」の場合）

1 同梱のユーティリティディスク（CD-ROM）から「Admin Tool ソフトウェア」をインストールします。詳しくは「Admin Tool ソフトウェアのインストール方法」（P.57）をご覧ください。

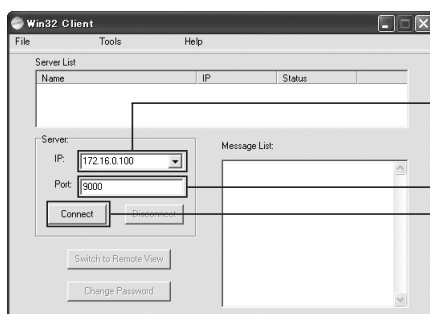
2 「Admin Tool ソフトウェア」を起動します。詳しくは「Admin Tool ソフトウェアの起動方法」（P.57）をご覧下さい。

3 「Admin Tool ソフトウェア」の選択画面（P.58）が表示したら、「CG-IPKVMR」欄に「172.16.0.100」または、ダイナミックDNSのドメイン名で「test-corega.dyndns.info」と入力し、「Port」欄に「9000」と入力し、[Login]をクリックするとログイン画面（P.59）が表示されます。

以上で「Admin Tool ソフトウェア」を使用して本商品にログインすることができます。ログイン後の「Admin Tool ソフトウェア」の設定方法は、P.60 以降をご覧ください。

●インターネット経由でローカル側パソコンを操作する(「Windows Client ソフトウェア」の場合)

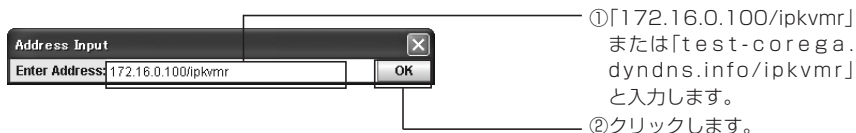
1 同梱のユーティリティディスク(CD-ROM)から「Windows Client ソフトウェア」をインストールします。詳しくは「Windows Client ソフトウェアのインストール方法」(P.71)をご覧ください。

2 「Windows Client ソフトウェア」を起動します。詳しくは「Windows Client ソフトウェアの起動方法」(P.71)をご覧ください。

3 P.72 の手順3の画面が表示されたら、「Server」欄の「IP」に「172.16.0.100」またはダイナミックDNSのドメイン名で「test-corega.dyndns.info」を入力し、「Port」に「9000」を入力し、[Connect]をクリックします。

以上で「Windows Client ソフトウェア」でローカル側パソコンにアクセスすることができるようにます。以降の手順と「Windows Client 画面」の操作は、P.72 の手順4以降をご覧ください。

●インターネット経由でローカル側パソコンを操作する(「Java Client ソフトウェア」の場合)

1　「Java Client ソフトウェア」(P.76) をご覧になり、「Java Client ソフトウェア」を起動します。

2　手順４（P.76）の「Address Input 画面」で、「172.16.0.100/ipkvmr」または、ダイナミックDNSのドメイン名で「test-corega.dyndns.info/ipkvmr」と入力して[OK]をクリックします。

3　本商品へのログイン画面が表示されます。

以上で「Java Client ソフトウェア」でローカル側パソコンにアクセスすることができるようになります。以降の手順と「Java Client画面」の操作は、手順5 (P.77) 以降と「Java Client 画面」（P.49）以降をご覧ください。

工場出荷時の設定一覧

■本商品の工場出荷時設定

システム名	CG-IPKVMR
IPアドレス	192.168.1.250
ユーザ名(管理者ユーザ名)	administrator(半角小文字)
パスワード	password(半角小文字)

■「Windows Clientソフトウェア」のホットキー設定

Exit remote location	[F2] - [F3] - [F4]
Adjust video	[F5] - [F6] - [F7]
Toggle OSD	[F9] - [F10] - [F11]
Toggle mouse display	[F11] - [F10] - [F9]
Adjust mouse	[F8] - [F7] - [F6]
Substitute Alt Key	[F12]
Substitute Ctrl Key	LCTRL

仕様一覧

対応PC		ミニD-Sub(15ピン)のディスプレイ出力端子とキーボード、マウス用PS/2端子を搭載しているDOS/Vパソコン
対応OS		Windows XP/2000/Me/98SE、Windows Server 2003、Windows 2000 Server、Windows 2000 Advanced Server、Linux(※)(※サポート対象外:Linux)
対応周辺機器		DOS/V機用アナログRGBディスプレイ(VESA規格準拠)、PS/2キーボード、PS/2マウス
対応プロトコル		TCP/IP
推奨ブラウザ		Internet Explorer 5.5以上
取得承認		VCCI クラスA
インタフェース	コンソール側	ディスプレイ:ミニD-Sub(15ピン) メス(青)×1
		キーボード:ミニDIN(6ピン) メス(紫)×1
		マウス:ミニDIN(6ピン) メス(緑)×1
	パソコン側	ディスプレイ、キーボード、マウス:SPHD (15ピン) メス(黄)×1
	シリアル	RS-232C D-Sub (9ピン) オス×1
	LAN	RJ-45×1
LAN仕様	規格	100BASE-TX/10BASE-T、Full Duplex/Half Duplexオートネゴシエーション
	ポート	RJ-45×1ポート(MDI/MDI-X自動認識非対応)
LED		Power (橙)×1、Link (緑)×1、100/10M (橙/緑)×1
最大解像度		1,600×1,200(60Hz)
切替方法		ソフトウェアによる切り替え
電源部	本体	最大消費電力:7W
	ACアダプタ	定格入力電圧:AC100V(50/60Hz)
		定格入力電流:800mA
環境条件	動作時	温度 0～40℃/湿度80%以下(結露なきこと)
	保管時	温度 -20～60℃/湿度80%以下(結露なきこと)
外形寸法		200(W)×80(D)×25(H)mm 本体のみ(突起部を含まず)
質量		510g 本体のみ

保証と修理について

■保証について

別紙の「製品保証規定」を必ずお読みになり、本商品を正しくご使用ください。無条件で本商品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。本商品の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書をご覧いただき、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、コレガホームページに掲載されている「修理依頼用紙」をプリントアウトの上、必要事項を記入したものと製品保証書および購入日の証明できるもののコピー（レシートなど可）を添付し、商品（添付品一式とともに）をご購入された販売店へお持ちください。修理をご依頼する際は、以下の点にご注意ください。

・修理期間中の代替機などは弊社では用意しておりませんので、あらかじめご了承ください。
・保証書に販売店の押印がない場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。
・商品購入日の証明ができない場合、無償修理の対象となりませんのでご注意ください。
・修理依頼時の運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。

※弊社へのお持ち込みによる修理は受け付けておりません。

■有償修理について

有償修理の場合は、ご購入の販売店へお持ちください。コレガホームページに有償修理価格が記載されておりますので、ご覧ください。

http://corega.jp/repair/

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため商品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

2006年　6月　　初版
2007年　1月　第二版

■コレガホームページのご案内

コレガホームページでは、各種商品の最新情報、最新ファームウェア、よくあるお問い合わせなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをおすすめします。

http://corega.jp/

■商品に関するご質問は・・・

商品のご質問はコレガサポートセンタまでお問い合わせください。お問い合わせの際にはコレガホームページ掲載の「お問い合わせ用紙」または下記の必要事項をご記入いただいた書面を用意して、メール、FAX、電話でのいずれかでお問い合わせください。

●お問い合わせ先

【コレガ　サポートセンタ】

Mail サポート:下記 URL からユーザ登録をした後、お問い合わせをしてください。

http://corega.jp/faq/

FAX:045-476-6294

TEL:045-476-6268

〈受付時間〉

10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 18:00　月～金（祝・祭日を除く）

※本商品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様のため、日本語版の OS でのみ動作を保証しています。そのため、日本語版の OS 以外のお問い合せはお受けできませんのでご了承ください。

※サポートセンタへのお問い合せは日本語に限らせていただきます。
This product is supported by Japanese only.

※電話が混み合っている場合は、MailサポートおよびFAXサポートをご利用ください。

●必要事項

あらかじめ下記の必要事項を控えておいてください。

・商品名
・シリアル番号（S/N）、リビジョンコード（Rev.）
・お名前、フリガナ
・連絡先電話番号、FAX 番号
・購入店
・購入日付
・お使いのパソコンの機種
・OS
・接続構成
・お問い合わせ内容（できる限り詳しくお知らせください）

PRINTED WITH SOY INK 本書は再生紙を使用しています。